堅実な守り・・・確かな勝利。

もし、ブラザーという企業をプレイヤーにたとえたとしたら、それは静かな闘志を内に秘めた、シャープなゴールキーパー。———はげしい企業競争の中でブラザーがひとつの地位を得ているとすれば、そんな精神があらゆる処で顔を出しているのかもしれません。

ブラザー工業株式会社
ブラザーミシン販売株式会社

モントリオールへの歩み着々

アジア予選代表（男子）決まる

日本協会は、3月15日から始まるモントリオール・オリンピックアジア予選に出場する日本選手団（役員4、選手14）を決め、3月1日発表した。

14名の選手は、昨年10月に発表（=本誌136号参照）された「昭和50年度ナショナル（モントリオールオリンピック第2次候補選手）」19名のなかからピックアップ。

昨年9月のプレ・オリンピック（モントリオール）代表から飯田（大崎電気）、柳川（大同製鋼）の両選手がはずれた。

大型GK・斉藤は全日本として初遠征。GK陣を3人で編成するのは、44年の欧州転戦以来のことで、本田の後継者づくりに懸命なコーチ陣の狙いがうかがえる。

ミュンヘン・オリンピック（昭47）以後、沈黙していたテクニシャン・佐々木のカムバックも目立つ。

学生界4人のうち最上級生の3選手は、村田が三景、柴田が本田技研鈴鹿、斉藤が秋田教員入りを内定している。

選手団は、3月1日から3日まで熊本、4日から9日まで沖縄で仕上げの強化合宿を行い、10日沖縄から第1ラウンド開催地の台湾（台北市）に向かう。

第1ラウンドを勝ち抜いた場合決勝ラウンド（対イスラエル）の日程が確定しないため、3月22日にいったん帰国するが、テルアビブ入りする日時については決まっていない。

男子・アジア予選代表選手団

▽団　長　神田　清（52才）日本協会常務理事
▽渉　外　伊藤　和夫（47才）日本協会常務理事（副団長）
▽監　督　竹野　奉昭（39才）
▽コーチ　東　嘉伸（38才）
（注）決勝ラウンド進出の場合の団長は林達夫副会長がつとめる予定。

▽選　手
・GK①本田　洋（29才，大阪イーグルス）
⑫柴田　正章（22才，法政大4年）
⑯斉藤将一郎（22才，日体大4年）
・FP②木野　実（30才，湧永薬品）
③藤中　憲二（28才，大同製鋼）
④中井　武三（26才，大同製鋼）
⑤佐藤　要二（26才，本田技研鈴鹿）
⑥花輪　博（25才，大同製鋼）
⑦松原　光三（26才，大同製鋼）
⑧菊池　悟（23才，東京12チャンネル）
⑨村田　幸男（22才，法政大4年）
⑩蒲生　晴明（21才，中央大3年）
⑪穂積　豊彦（23才，湧永薬品）
⑬佐々木健一（26才，三景）
・○内数字は今回の背番号
・選手の略歴は本誌7頁に掲載

史上初の女子五輪候補

日本協会は、2月25日、女子のモントリオール・オリンピック候補選手19名（GK4、FP15）を発表した。いずれも、50年度ナショナル。

女子のオリンピック候補選手が発表されるのは、史上初めてのことだ。

昨年12月の第6回世界女子選手権（ソ連）出場の選手をはじめ、現在、国内のトップレベルにある選手が網羅されている。

当面の目標は、6月28日からワシントンで行われる「3大陸（アジア=日本、アメリカ、アフリカ）代表決定戦」を突破することだが期日からみて、決定戦の出場メンバーが、晴れの代表につながるのは確定的。

すでに、JOC（日本オリンピック委員会）により、出場選手枠は12名と発表（=本誌2頁参照）されており、一方。コーチングスタッフは、4月末までに候補選手の追加発表もあり得るとしているだけに、5月なかばのメンバー決定まで、激しい競争が予想される。

コーチングスタッフは、引きつづき井薫監督ら4人がつとめ、3、4月の2ケ月間に、4回（通算、30日間、東京ほか）を計画している。なお、桜庭（日立栃木）は辞退届を提出中。元・田村紡の3選手は、4月以降、新チーム・ジャスコ（三重）所属となる。

女子・オリンピック候補選手

▽GK（4名）
和田　祥子（24才，立石電機 168cm）
鈴木　はる子（23才，日本ビクター 172）
久保　徳子（23才，元・田村紡 162）
渡辺　久子（22才，日本ビクター 161）

▽FP（15名）
島田　夏枝（25才，立石電機 163）
古佐原ひろ子（25才，東京重機工業 153）
蔵田　照美（24才，立石電機 162）
山下　恵美子（23才，立石電機 159）
額賀　美恵子（23才，日本ビクター 163）
有賀　もと子（22才，東北ムネカタ 165）
菊地　春美（22才，東京重機工業 162）
松下　仁美（21才，元・田村紡 163）
加藤　美起子（21才，日本ビクター 165）
大場　裕子（21才，大崎電気 165）
小森　久里子（21才，ブラザー工業 166）
桜庭　郁子（21才，日立栃木 155）
紀野　奈々美（20才，立石電機 165）
穂積　美保子（20才，日本ビクター 168）
河田　栄子（20才，元・田村紡 166）

▽コーチングスタッフ（4名）
井　薫（37才）=監督
鈴木　義男（41才）
池田　鉄哉（35才）
藤原　侑（34才）

「ハンドボール」 51年3月号（第139号）目次

【表紙写真】世界女子選手権予選リーグ・日本×ルーマニア戦（50年12月3日・ソ連）=全日本女子選手団提供

モントリオール代表は役員3、選手24（男女）

JOC（本日オリンピック委員会）は、1月28日、東京渋谷の岸記念体育会館で総会を開き（日本協会・荒川清美JOC委員出席）今夏モントリオールで開かれる第21回オリンピック大会に派遣する日本選手団の編成を決めた。

それによると、ハンドボールは役員3、選手24（男女各12）で、削減を危ぶまれた女子も認められ、これから行われる予選を勝ち抜き、代表権を得れば、男女揃って晴れの舞台への出場がかなう。

ミュンヘンの時の配分は役員1、選手11、補助役員（今回なし）1で、役員1を選手に振り替え話題をまいた。

日本協会は、今回はJOCの指示どおりの配分で選考を進める予定だが、代表選手の決定（承認）は5月16または23日に全国会議（代議員会・理事会）を開いて行う模様。

なお、女子は、ワシントンでの3大陸代表決定戦（6月28～7月4日）に勝てばそのままモントリオール入りの予定だ。

力あげる韓国とイスラエル

～アジア予選を展望する・編集委員会～

クウェートに慎重な日本勢

モントリオール・オリンピック男子アジア予選は、3月15日から21日まで台北市に日本、韓国、クウェート、台湾が集まり1次ラウンド（2回総当り）。そのあと、3月28、30日の両日、1次ラウンドの勝者が、テルアビブに乗りこんでイスラエルと代表決定戦（2試合）を行う。

日本の、オリンピック連続出場成るか――。予選会の話題を探ってみた。

楽観ムードひそめる

昭和46年秋、東京で開いたミュンヘン・オリンピックアジア予選は日本・韓国、イスラエルの3ケ国によって争われ、日本が4戦全勝、総得点74、総失点27と危気なかった。

今回も、国際筋の評判は高く、その優位は動かせない、としているが、日本チーム周辺は、予選が近づくにつれ、緊張の度合いを強めており、ひところ見られた楽観ムードは、影をひそめている。

1次ラウンドでは、若手を揃えた韓国、不確実情報ながら、東ドイツの指導を受けていると云われるクウェートの実力を警戒、〝遠征〟というハンデも、5年前とは異なる条件にあげられている。

クウェート活発な国際交流

当分、国際舞台――特にオリンピックや、世界選手権には現われまい、とみられていたクウェートの登場はたしかに無気味である。

同国連盟の発足は一九六六年（昭41）だが、ハンドボールの芽生えは、一九五九年頃といわれ、なかなかの歴史を持つ。

しかし、国際的な動きは、ほとんど伝えられたことがなく、IHF（国際ハンドボール連盟）のコーチシンポジウムや、審判講習会に顔をのぞかせていた程度だった。

本誌が知る限りでは、一九七四年（昭49）チエコで開かれた「プラハ友好国際トーナメント」に参加したのがベールを脱いだ最初、クウェート以外は、クラブチームが多かったこともあり2位となっている。

そのあと、昨年1月、自国にアラブ友好国大会（5カ国参加）を招き、組織的にもかなり確立されていることを示し、さらに、11月カイロでのパン・アラブ選手権で、エジプトに次いで準優勝したニュースが入ってきている。

東ドイツの影響うける？

チーム力などは、メンバー（顔ぶれ）が辛うじて判っている程度～別掲～で、戦力的な分析ができるデータは、日本協会にはほとんどない。

ただ、プラハ大会の時、クウェートをロコモティブ・プラハがチエコ・リーグの2部所属であることや、パン・アラブ選手権で優勝を譲っているエジプトの実力が、国際的にはBクラスの下程度なことから、クウェートの力も、そう高くないのではないか、という判断ができる。

しかし、日本チームのコーチ陣は、東ドイツの影響を重視しており、また、大会緒戦に顔合わせする不安や、台湾乗りこみまでしてこの大会を目指す意欲の背景には「かなりの自信があるのではないか」（全日本・竹野奉昭監督）という。

若手揃えた斗志の韓国

ミュンヘン予選以後、それまでにも増して「打倒・日本」の斗志を燃えあがらせている韓国。

46年秋以来、久々の対決だが学生、社会人、高校交流などを通じて、有力選手の試合ぶりをつかんでいるだけに、クウェート戦ほどの心配はない。

ただ、ミュンヘン予選当時、高校（東亜高）3年生ながら、エースとして大活躍、得点王（25点、4試合）となった車聖福が、アクロバット・シュートの金成憲とともに成均館大へ進んで、今年が最上級生、まさに脂の乗り切った時だけに、両者に引っぱられて高正奎、辛炳翼、金英洙、朴永甲、鄭享均らが天性のバネと、激しい動きを示すようだと、5年前の20－9、21－7そのままとはいくまい。

GK李錦求、姜正炫の好守も国

アジア予選1次ラウンド

日付	対戦	審判
3/15	日本――クウェート	（ド）
	韓国――台湾	（日）
3/16	日本――台湾	（ク）
	韓国――クウェート	（ド）
3/17	日本――韓国	（ド）
	台湾――クウェート	（日）
3/18	～休み～	
3/19	韓国――台湾	（ク）
	日本――クウェート	（ド）
3/20	韓国――クウェート	（日）
	日本――台湾	（ド）
3/21	台湾――クウェート	（ド）
	日本――韓国	（ク）

（　）内は審判国。ドは西ドイツ，クはクウェート，（日）は日本（安藤，佐野）

同決勝ラウンド

4/1～4/5イスラエル――1次ラウンド勝者

際級に成長していると伝えられ、オリンピック候補4人を含んだ全日本学生が、昨年6月の訪韓で、単独の円光大、成均館大に13—18 21—27と連敗した（＝本誌132号参照）のも、日本勢の表情を引きしめさす一因になっている。

韓国側の悩みは、社会人層が徴兵などのからみで、日本ほど拡充されず、学生界の好素材を卒業後活かし切れない点にある。

若いメンバーを揃えているのはそのためだ。

台湾、長身選手揃える

地元・台湾は、今回が初のビッグゲーム。

これまで、日本遠征の途中立ち寄ったFA・ギョッピンゲン（西ドイツ）との対戦や、大崎電気（埼玉）と11—29、11—26、9—35などの記録があるようだが、このスコアから推して善戦が精いっぱいというところではなかろうか。

バスケットボール嗅は、かなりうすらいできているが188cmの林世正、187cmの李麟虎、183の林成立といった長身選手を活かすハンドボール戦法は、未消化とみたい。

正直のところ、今回は、「とりあえずの参加」と思われていた。それが、いろいろな風の吹きまわしから〝開催国〟となり、それだけに、地元関係者、ファンの関心は高まるだろう。

その声援をうけて、これまでに蒔いた地道な年少対策が、どう実を結ぶかは、一つの興味である。

豊かな経験活かせ日本

いかにクウート情報が乏しく、韓国若手の伸びがあろうとも、本舞台・モントリオールでベストエイト突入を目指す日本が、アジアの、しかも最初のゲートを通るのに手こずっているようでは拙い。

遠征のハンデといっても、これは、日本だけが背負うものではないし、国際キャリアという点ではヨーロッパ各国に比べれば不充分としても、今回の参加国の中では日本が、もっとも豊富な経験をつんでいるハズである。

難関は、決勝の相手・イスラエルだ。ミュンヘン予選の時、イスラエルは日本に15—4、18—7で連敗、想像していたほどの実力は示さずに終っているが、一昨年の世界選手権予選（テルアビブ）では、14—14、18—14と追い詰めて来ている。

国内強化つづけるイスラエル

イスラエルの動きは、けっして活発ではない。

昨年1月久々に遠征を試み、西ドイツB、オランダ、フィンランドなどと交流しているが、その後は、ほとんど情報が伝えられていない。

今シーズンも、わずかに、ヨーロッパ・カップへ、チャンピオンチームのハポエル・レコボトが、新設のヨーロッパ・カップ・オブ・カップスに、同国2位のハポエル・ラマッガンが出場して2回戦へ勝ち進んだのが本誌の目に止まっているだけである。

しかし、国内に留っての強化はかつてないほどといわれ一昨年、日本と1分1敗の自信も、かなり大きく作用してくるのではなかろうか。

長くゴールを守りつづけたベテラン・セラや個性のある攻撃を見せたビアリック、巨漢リクリンらは第一線を退いたようだが、ホフマン、ヨシホビッチ、マドモニらが着実に力をつけ、老巧テネンバウムも要所を締める。新進ゲルフアントバラク、アルベルマンの力も侮れない。スペインリーグに居るレフラー（アキバ）やバアンゲロビッシュも場合によっては姿を見せよう。

2月2日付のAP電はイスラエルオリンピック委員会、J・インバー会長のコメントとして「モントリオール・オリンピックには個人競技のほか、ハンドボールも是非出場させたい」と伝えてきている。意気ごみがうかがえる。

ハンドボールに引きつづき、4月初旬、サッカーのアジア予選・日本×イスラエル戦がテルアビブで行われる。

熱狂的なサッカーに対する声援の露払い役ともなるハンドボールへの応援は、一昨年を上廻るものとなろう。

日本選手たちも「最大の敵は、あの声援ぶり」という。

だが、4年にいちどのオリンピックへの道が、平たんであろうハズはない。

アジアを素通りして、つねに本場・ヨーロッパに目を注いできた日本ハンドボール界にとって、この予選は、ある意味で〝最初の試錬〟ともいえる。

アジア地域のIHF加盟国は、すでに13に達している。

中国など未加盟ながら、活動を行っている国を加えれば、極めて近い将来、その数は20を越すだろう。

苦労なしで育って来た日本に、アジアで勝つことの難しさが、ひたひたと迫って来ている、といってよい。

アジアで戦う意義が出て来たともいえる。

日本協会荒川清美理事長は『ただ一枚のモントリオール行きのパスポートを手にすることの大きさもさることながら、発展するアジア・ハンドボール界を勝ち抜く意味が、今回ほど大きく浮き出していることはかつてなかったハズである』と選手たちにいい聞かしている。

日本チームの健斗を期して待ちたい。

編集委の予想する各国主力メンバー（数字は身長cm）

【韓　国】

	氏名	身長
K	姜正炫	176
	李錦求	178
F	車聖福	183
	金成憲	170
	李鍾七	175
	高正奎	
	辛炳翼	
	朴永甲	177
	金英洙	179
	金晩秋	179
	金性洙	179
	鄭享均	

【台　湾】

	氏名	身長
K	董建文	174
	彭玉彰	178
	董国恩	168
F	林世正	188
	李麟虎	187
	林成立	183
	柯兆栄	180
	王邵永秋	179
	陳金富	175
	潘志鵬	176
	林長輝	176
	李萬安	175
	曹国鷹	172
	郭明堂	176
	黄朝嘉	180
	郭勝雄	172

【イスラエル】

	氏名	身長
K	ルッソ	178
	アハロン	
	リブニ	180
F	ヨシホビッチ	186
	ゲルファント	185
	アーモン	189
	ザイク	184
	テネンバウム	176
	レフラー	186
	ホフマン	180
	アルベルマン	178
	マドモニ	180
	バラク	
	バアンゲロビッシュ	180
	ビッキー	
	マルコビッツ	

【クウェート】

アッバース
アリ
ナーセルサリハ
ムサエド
アルヘルウ
ジャーセム
ガージイン
ハッサン
ファルジュ
ファイサル
アブドルアミール
アブドルアジース
ユセフ
アブドラアミール

アジア予選かく戦う

〝追われる立ち場〟克服に自信

監督　竹野奉昭

46年秋のミュンヘン予選を経験したことによって、今回は、ある程度の冷静さが生じていてもよいハズだが、やはり、最初の関門にして、しかも絶対に取りこぼしを許されない大会とあっては、日増しに圧迫感が強まってくる。

ただ、4年前と異るのは、重圧を斗志におきかえるだけのゆとりを感じ得ることだ。

存分に戦い、聖火の下へ連続出場する自信は充分である。

もちろん、ここへ来て、クウェート、イスラエルあなどりがたしの報を耳にしているのも事実である。

特に、第二の関門とも云うべきイスラエルの斗志は、彼らが、非常事態下という環境におかれているだけに、軽視は許されず、乗りこみの不利もあわせて、かってない難敵とみなければなるまい。

スポーツの生命は〝気力〟〝斗争心〟である。

この点で、日本は、前回とは違って、一つのハンデを背負っている。

即ち、参加各国の照準が、はっきり、我々に向けられているからだ。

前回は、イスラエル、韓国、日本いずれも精神的には、同一線上にあった。

どの国も、36年ぶり、いや初の栄光を目指して自信にあふれていた。

今回の日本は〝追われる立ち場〟にある。

日本を押しどけない以上彼らの眼中に聖火は映じ得ないのだ。

日本は、ミュンヘン出場を果たしたことによって、オリンピックというものがハンドボールマンの間で、身近かなものになった。

魔力を秘ませた高嶺の花ではなくなったのである。

しかし、他国にとっては、いぜん、オリンピックは憧景の場であり、どのような努力をしてでも歩み貫かねばならぬ道として、残っているのである。

この差――日本にとって目に見えぬ強敵だと思う。

代表選手14名にしぼりこんだ2月の神戸合宿は、日を追って、緊迫感をただよわせはじめた。

選手たちが、はっきりと、置かれた立ち場を自覚しているからにほかならない。

桧舞台・モントリオールが華やかであればあるほど、予選は、非情であり、過酷である。

卒直のところ、我々への課題はアジアを通りこして、モントリオールで、いかに欧州勢の壁を突き破るかに集中しているが、アジアで勝ち抜くことを、至極当然とうけとめていると、思わぬおとし穴にはまりこんでしまう。

かと云って、それを恐れて、わずかでもおびえ、ひるみを示せば他国のつけこみを許してしまうことになるだろう。

ある意味では、日本は、ミュンヘン予選時よりも厳しい局面を迎えていると云える。

しかし、この難局を、充実した心・技・体で切り開いてこそ、日本のハンドボール界は前進を遂げることができるのであろうし、モントリオールでの成算につながるのであろう。

アジア・ハンドボール界は拡充の一途だ。アジアからオリンピックへ、そして世界選手権へとその道のりは険しくなれこそすれ、けして、今までのような楽なケースは望めまい。

アジア・チャンピオンとして日本がいつまでも君臨するためにも今大会は、極めて重要な意味をもつものと、決意を新たにしている。

49年春の世界選手権アジア予選決勝，日本—イスラエル戦。
今回も日本の前に立ちはだかるのはイスラエルだろう
（テルアビブ体育館）

アジア予選かく戦う

〃日本のペース〃確立目指す

コーチ　東　嘉伸

アジア予選大会が目前に迫った――。吾々は、この予選に焦点を合わせ、全力を挙げて体力、技術戦術に研鑽を積んでいます。

4年前のミュンヘンオリンピック当時、球界あげてのバックアップによって、アジア諸国を一頭も二頭も抜き出てリードしたことは記憶に新しいところですが、以来3年半、決して満足でなかった日本の強化現状を省みる時、韓国、イスラエルは勿論のこと、ヨーロッパよりコーチを招き、この予選に躍進をかけているクウェートすらも安易に考えることは許されないと胆に命じています。

地理的、経済的に外国との交流が比較的少ないハンドボール日本が、過去、遠征での大会で余り良い成績を挙げていないことを指摘されますが、謙虚にその事実を反省し、分析し、モントリオールへの出場権をかけて誠心、誠意、戦うべくして戦う覚悟であります。

出発前に当り、その戦術の全容を披露すべきでありましょうが、戦いを前にして戦術を語る愚は堪えて忍びたいと思います。4年前機関誌に投稿された某先輩の忠告を想い出します。情報化時代も更に進んでいる現在、常識的に「計りごとは密なるを以って良し」としたくお許しをいただきます。

しかしながら、一昨年の対東独国際大会、そしてソ連、ポーランド、デンマークに大敗した昨年のプレオリンピック大会の貴重な経験にもとづいて、強調出来ることは、諸先輩によってすでに云い尽されたことですが1にも2にもスピード、スピードに徹することです。

防禦面については、今更申し述べるまでもなく60分のゲームに於いて最低30分はフットワークを主体とする防禦時間であるという基盤にたって、防禦体力と防禦リズムの再考であり、個々の防禦能力の向上、即ち、マンツーマンディフェンス及びマンツーマン、プレスディフェンスの向上が現在の課題であり、これら積極的ディフェンスと対応能力の向上の上にたってチームディフェンスの確立と未来像を考えています。

攻撃面については、日本のハンドボールの良さを今一度振り返って考えています。

その一つは最良の攻撃方法であり、且つ攻撃力である速攻を再点検することであります。勿論速攻を多用するにはディフェンス力を充実させることが条件であることは云うまでもありません。厚い壁高い壁を打ち破るパワー（力×スピード）をとり戻したく考えています。

個々についてもシュート力とフェイント力の強化を重点的に考えて居ります日本のフェイント力は世界屈指であった筈ですし、その伝統は佐々木にうけつがれています。

シュートにおいても藤中、佐藤を筆頭に現状に止まらず更にシュートの幅（変化）を開発するよう努力しています。又、サイド攻撃、ポスト攻撃もチームとしてその方向性はすでに示しており取り組んでいます。

最後の守りゴールキーパーも、ベテラン本田が斉藤、柴田の大型コンビの先がけとなり、後盾となり、スピード化の始め（パスアウト）と終り（シュートチャージ）をまっとうすることに集中することであります。

以上、正に基本といわれていることを忠実にゲームに生きるよう思い切って戦います。

ベンチよりの指令を適確に伝え一体となって戦えるよう工夫もしています。攻めのコントロールタワーが木野、藤中であるならば、守りのコントロールタワーは中井であり、乱れぬ攻防の確立を考えています。

神戸、熊本、沖縄と続く残された20日余りの合宿において前述の細部にわたる課題をあせらずにこなすことに全力をあげ、必ずや全国のハンドボールマンに満足してもらえる戦いを挑んでまいります

今大会は新鋭穂積、ジャンボ蒲生、菊池等の躍進にも期待出来そうです。

竹野監督とプレオリンピックを反省して、よく話します。「これからは相手のペースで戦わされるのではなく、日本のペースを確立し戦うべくして戦う時が来たのだ」と。……

〃決勝〃の日程決まらず

□……アジア予選決勝・イスラエル×1次ラウンドの勝者戦は、2試合ともテルアビブで行われることになっているが、現在（2月23日）にいたっても、いぜん正式な日程が決まらず、決勝進出を確信している日本協会は困惑。

1次ラウンドのクウエート参加についても日本協会筋は懸念を消していない。

アジア予選審判員

安藤、佐野両氏に決定

韓・台戦など3試合担当

安藤国際審判員

佐野国際審判員

モントリオール・オリンピック男子アジア予選の審判をつとめる日本ペアは、安藤純光（46才、法大出）、佐野和夫（46才、東京教大出）の両氏によって組まれることが決まった。

同ペアは、48年9月の日本×ユーゴ戦（東京）で、公式国際試合を初担当、49年9月の日本×東ドイツ戦では公式4戦すべてをレフェリング、国際的な評価を得ている。

日本人審判員が、国外での公式国際試合のレフェリーを担当するのは、これが初めて。

両氏は、3月12日羽田国際空港から出発、15日の韓国×台湾1回戦、17日の台湾×クウェート1回戦、20日のクウェート×韓国2回戦の3試合をジャッジする。

◇…両審判員略歴…◇

安藤純光 日本協会審判部長、3部合同会議々長、法大教授、法大出、昭和4年生まれ。34年審判界入り、いちぢ、全日本学連理事長をつとめた。46年IHFレフェリー・ライセンス取得、48年第14回、50年第15回IHF審判講習会出席、公式国際試合担当6回、初試合は46年6月、日本×スウェーデン戦（東京）でT・ヤーネルスタム氏（スウェーデン）とのペア。

佐野和夫 東京秋川高教諭、東京教大出、昭和4年生まれ。30年審判界入り、いちぢ東京協会理事長をつとめた。46年IHFレフェリー・ライセンス取得、48年第14回IHF審判講習会出席、公式国際試合担当6回、初試合は41年10月、日本×中国戦（東京）＝単審制。

全日本 ドロット（スウェーデン）と3戦

新シーズン開幕国際試合

日本協会は、恒例の新シーズン開幕国際試合（第6回）として、昨年のスウェーデンチャンピオン「ドロット・ハルムスタート」を招き、4月10日から21日まで、各地で4試合を行うことに決め、交渉を進めている。

今回は、これまでのシリーズとかわって、モントリオールを目指す全日本男子の強化対策を主眼としており、別掲のとおり3試合の対戦が予定されている。

全日本男子は、順調にいけば、4月7日ごろ、アジア予選の決勝ラウンド（対イスラエル、テルアビブ）から帰国する予定で、オリンピック連続出場を果せば、かっこうの凱旋試合になる。

全日本男子が、国内で外国チームと対戦するのは、49年9月の東ドイツ戦以来、1年7ケ月ぶり。

◇…日　程（予定）…◇

・4月11日　対全日本（大阪）
・15日　対大同製鋼（名古屋）
・17日　対全日本（岐阜）
・20日　対全日本＝予定（横浜）

モントリオールへの道

去年12月に行われた世界女子選手権のいわゆる〝特別記録〟は、今までになく細かいもので実に20項目にも及んでいる。

シュート数、PT数、FT数などはもちろんのこと攻撃回数、シュート失敗の内訳、ボールのキープ時間、相手退場で6対5となった時のシュート率といった厳密さ、細かさである。

ハンドボール競技は水泳や陸上競技などと違い、タイムを競うスポーツでないため、どちらかといえば〝記録〟には無頓着。

それがミュンヘンオリンピック前後からIHFが中心となって熱をいれはじめ、モントリオールでは、公式記録員、計時員の他に特別統計員の席がコート中央に与えられることになっている。

この面での研究が一段と進んでいるのは東欧諸国だ、という。

今や、技術、体力を身につけるだけではなくその上にプラス相手を研究し知ることがナショナルチームにとって不可欠になってきた。

東欧全盛の一つの原因がこの辺にあると思う。

国内では、教育系大学が比較的早くからデータを分析しているが、日本協会そのものは今までは全く〝無視〟してきたといってもよいだろう。

他国との交流が少ない日本にとって情報を集めるのは困難ではあるが、これからはもっと前向きに検討していかなければなるまい。

全日本総合選手権の古いスコアブックさえ残っていないと聞けばなおさらそう思うのである。

〝特別記録〟というものが国際的にどんどんと取り入れられている傾向に、遅れてはならない。

今話題にのぼっている日本リーグなども、発足と決まったら積極的に特別記録の作成を進めてみたらどうだろう。そうすれば今までと違っていろいろな方向から楽しめるし、新たな興味も湧いてくると思う。たとえば得点王の他に、アシスト王、シュート阻止最高GK賞など限りない。

特別記録の整備のほか、いわゆるスカウト（データー収集、相手国偵察）や、チームドクターの選任などについても、そろそろ、〝実現〟へ向かってよい頃だろう。

モンリオールへの道は決して、技術や体力ばかりが課題ではない

あらゆる面での努力が伴ってはじめて「頂点強化」は実を結ぶものであろう。

（青木）

五輪アジア予選代表の横顔

・GK　本田　洋　大阪イーグルス(大阪堺工高教諭)、日体大出、21年3月生れ、179cm、76K。ミュンヘンオリンピック、昭45第7回世界、昭49第8回世界、昭50プレ各代表、公式国際試合出場50回

・GK　柴田　正章　法政大4年28年4月生れ、186cm、73K。昭50プレオリンピック代表、公式国際試合出場5回

・GK　斉藤将一郎　日体大4年28年4月生れ、187cm、84K。昭50第6回世界学生代表、公式国際試合出場5回

・FP　木野　実　湧永薬品、立教大出、20年12月生れ、181cm、76K。ミュンヘンオリンピック、昭42第6回世界、昭45第7回世界、昭49第8回世界、昭50プレ各代表公式国際試合出場59回（198得点）

・FP　藤中　憲二　大同製鋼、日体大出、22年11月生れ、179cm、75K。昭45第7回世界、昭49第8回世界、昭50プレ各代表、公式国際試合出場39回（103得点）

・FP　中井　武三　大同製鋼、同志社大出、24年3月生れ、180cm 76K。ミュンヘンオリンピック、昭45第7回世界、昭49第8回世界昭50プレ各代表、公式国際試合出場37回（75得点）

・FP　佐藤　要二　本田技研鈴鹿、中大出、24年10月生れ、177cm 82K。昭49第8回世界、昭50プレ各代表、公式国際試合出場21回（88得点）

・FP　松原　光三　大同製鋼、日体大出、24年12月生れ、180cm、72K。昭50プレオリンピック代表公式国際試合出場4回（2得点）

・FP　佐々木健一　三景、中大出、25年1月生れ、170cm、75K。ミュンヘンオリンピック代表、公式国際試合出場8回（1得点）

・FP　花輪　博　大同製鋼、中大出、25年5月生れ、177cm、73K昭49第8回世界、昭50プレ各代表公式国際試合出場17回（20得点）

・FP　菊池　悟　東京12チャンネルHC、早大出、27年4月生れ186cm、85K、昭49第8回世界、昭50プレ各代表、（昭50第6回世界学生代表）、公式国際試合出場21回（23得点）

・FP　穂積　豊彦　湧永薬品、大阪経大出、27年3月生れ、180cm 78K、昭50プレオリンピック代表公式国際試合出場4回（8得点）

・FP　村田　幸男　法政大4年28年9月生れ、176cm、68K。昭49第8回世界、昭50プレ各代表、（昭50第6回世界学生代表）、公式国際試合出場17回（7得点）

・FP　蒲生　晴明　中大3年、29年4月生れ、192cm、88K。昭49第8回世界、昭50プレ各代表（昭50第6回世界学生代表）、公式国際試合出場20回（26得点）

国体に「全県参加種別」を設定

52年度から実施へ

～全国代議員会・理事会～

「日本リーグ」の発足も決まる

日本協会は、2月21日午後3時から全国理事会、22日午前10時から定期全国代議員会をいずれも東京・岸記念体育会館で開いた。

「財政問題」「日本リーグ問題」「アジア（AHF）問題」「国体問題」など大きなテーマが重なったため、両会議とも7時間近い長論議となった。

◇全国理事会　田村会長、保坂、徳永両副会長、荒川理事長ら23理事出席（定数33名以内、現在数29名）＝成立

◇全国代議員会　出席＝斉藤（青森）、箱崎（岩手）、関川（福島）、渡辺（新潟）、柳沢（長野）、若山（石川）、伊藤（福井）、桑名（栃木）、遠藤（埼玉）、浮谷（千葉）、若崎（神奈川）、岡村（東京）、前田（大阪）、尾本（滋賀）、永井（岡山）、古賀（佐賀）、島田（熊本）、小袋（全国高体連）、山田（全日本教職員連）以上19氏、ほかに有効委任状17通。（定数52名）＝成立

登録金いっさい据おき

両会議最大の焦点は、やはり49年度に、史上初の実質赤字を出した財政問題であった。

50年度事業の切り詰めによってどうにか、大幅な赤字の累積だけはまぬがれる見通しとなったが、女子世界選手権遠征補助費の交付が遅れていることや組織協力金、役員協力金が、見込み額より伸び悩んだため、50年度内の建て直しは難しくなって来た。

例えば、2年度にわたって納入を要請している組織協力金は、総額611万円（A141万、B470万）のうち、今年度内に40％（245万）をあてこんでいたが、1月末現在、115万円に留っている。

一方、12月はじめに出揃った各部の51年度予算（要求額）を査定の結果、今年度とほぼ同額（二千三百万円）が計上されたため、財務委員会は、再三の会合の結論としてチーム登録金の値上げは「やむを得ない」との線を打ち出した。

しかし、全国会議を前にした2月21日午前中の月例常務理事会で荒川理事長が「組織協力金制度の一部を残す以上、事業を縮少しても新年度は登録金の値上げは行わない」との意向を強調、財務委員会と〃対立〃しながらも、今年度額に据置いたままの提案となった。

機関誌購読料は値上げ

全国会議では、昨年春の会議同よう、事業縮少か、値上げかの論議となったが、現行額継続を支持する空気が強く、代議員会で、前田代議員（大阪・新任）から財務委原案の再考が持ち出されたものの、採決の結果、7―12で否決、別表のとおり、51年度の登録金は50年度額そのままとなった。

このため、各部事業は、別掲のように、総額二千百万円弱（ほかに380万円の予備費）におさえこまれることとなり、各部はこの範囲でやりくりをつけながら新機軸を生み出さねばならぬこととなった

新規事業のうち、この日予算承認を受けたものは「ハンドボール相談室」の開設（普及指導部担当48万円）だけという〃緊縮〃ぶりで、「審判員養成コース（仮）」（審判部）「下半期選手強化費」（技術部）などは、補正時まで見送りとされた。

なお、機関誌購読料だけは、郵送料金の値上げなどあって年額で1冊200円増の二千七百円（11回発行）と改正が承認された。

加盟金は、Aランク（登録100チーム以上の都道府県協会）5万円Bランク（40チーム以上）3万円Cランク（39チーム以下）2万円と現行額そのまま。

組織協力金はAランク10万円、Bランク3万円、Cランク1万円と決まり、今年度も、機関誌への協賛広告（1件1万円）提供をもって振り替えることができる。

4月中にリーグ運営委

注目の「日本リーグ問題」は、執行部提出の運営委員会規程案の審議が、開催の是非につながるものであったが、両会議とも、その発足については、特にブレーキをかける発言はなく、経費を主とした運営面での課題が問いかけられる展開となった。

このため、執行部側は、「日本リーグ」発足については、支持されたものとして、こまかい作業は運営委員会によって処理することを改めて提案、異議なく承認をうけ、ここに、多年にわたる懸案であった「日本ハンドボールリーグ」は、今年度内にスタートすることが、本決りとなった。

具体的な行動としては、加盟候補（ノミネート）チーム（＝次頁）に対し、3月末までに加盟の諾否を求め、4月中旬に初代運営委員会を設置することになる。

第1回リーグの参加チームは男女とも6～8、会期は、今秋9月の4、5、11、12、15、18、19、23、25、26日の10日間を目標におき、各都道府県協会の受け入れが整わない時は、改めて日程を組みなおす。

加盟希望が4チームに満たない場合は発足をとりやめる。

「極東」には慎重な姿勢

「アジア（AHF）問題」は、本誌既報のとおり、AHF（アジアハンドボール連盟）の結成が報告されたが、AHFに関する問題をふくめて、一切の〃アジア問題〃が、会長―理事長一任の形がとられてきたため、特に際立った質疑のやりとりは見られず、IHF（国際ハンドボール連盟）が、3月13日にホンコンに招集している「

51年度各部事業予算

（単位，円）

項目	金額
・総務企画部事業	13,110,000
・財務部費	430,000
・3部合同委費	50,000
・審判部事業	1,818,000
・技術部事業	2,900,000
・普及指導部事業	2,580,000
・予備費	3,876,100
計	24,764,100

（注）各部事業費の詳細は次号に掲載します

IHF加盟極東7カ国会議」（＝本誌15頁参照）には、荒川理事長を代表として派遣することになった。

ホンコンの会議が、「極東」の新しい結束を求める方向に進んだ場合の、日本協会の姿勢が、両会議で質問されたが、田村会長は『この会議は、そうした動きのためのものではないと聞いている』とし、仮に「極東連盟」結成が動議されたとしても、荒川代表は、白紙の態度で持ち帰り、改めて会議を開き、協議することとなった。

なお、日本協会は、48年1月の全国評議員会、同理事会で、いわゆる中国問題については、IOC（日本オリンピック委員会）、日本体協の態度尊重を打ち出している。

国体に女子学生参加OK

「国体問題」は、来年の青森国体から、成年女子に学生の参加を復活させたいとする執行部案が、表面のテーマであったが、両会議とも、特に反対意見は出されず、スムースに承認された。

執行部案は「成年女子に1チーム5名以内の学生の参加を認める。

ただし、学連登録の学生は3名以内とする」というもので、一昨年まで採られていた「3名以内」を一歩前進させているのが注目される。

女子学生のシャットアウトは、今年の三重国体から適用されたものだが、その結果、成年（一般）女子チームの減少という事態を招き、日本協会を慌てさせた。

わずか2回で逆戻りすることに低抗もあったようだが、それを押し切ってむしろ、前例を上廻る内容で改正した姿勢は、評価されてよいだろう。

このテーマよりも、大きな反響を呼びそうなのは、荒川理事長が緊急提案し承認をうけた「全県参加種別の設定」であろう。

同理事長は『過去にも、この問題は検討されたが、踏み切るべき時が来た』として、4種別5部門80チームを「32、18、10、10、10」に分配している現行を白紙へ戻し「4種別80チームに変更し「47、11、11、11」とする意向を明らかにした。

このシステムは、毎年度いずれかの種別が、ブロック予選を経ずに国体の本舞台を踏めることになるもので、地方組織は、かなり以前から、その実現を望んでいた。

にもかかわらず日本協会が、二の足を踏んでいたのは、49年度まで、参加総チーム数を70に限定されていたため、1種別に47を配分することが難かしかったことや、〃全国大会〃はダブルヘッダー（一日2試合）を行わないとする内規、荒天時の日程消化などが足かせとなっていたからである。

しかし、荒川理事長は、地方組織―日本協会の直結をいっそう強める施策の一つとして重視、これまでの〃障害〃は「小さなもの」と判断、そのタイミングを狙っていた。

この日の両会議では、突然ともいえる提案にとまどいながらも、その構想を歓迎、昭和38年からの5部門制を、4部門(種別)に改正する〃大転換〃を、極めてスムーズに可決した。

荒川理事長は、さらに、その実施時期については「来年の青森国体から……」との思い切りのよさを示し、承認をうけた。

どの種別に、最初の「47都道府県」参加の道をつけるか、成年男子の一般と教員をどう調整するかなどについては、7月までに執行部が原案を作成することとなった。

◇昭和51年度日本協会登録料など納入金（単位・円）

		チーム登録料	個人登録料	オリンピック基金	機関誌購読料
一般	A	四、〇〇〇	一人 二〇〇	五〇〇	二、七〇〇
	C	三〇〇			
学生		四、〇〇〇		五〇〇	二、七〇〇
高専		一、五〇〇		三〇〇	二、七〇〇
高校		一、五〇〇		三〇〇	二、七〇〇（注）
少年		五〇〇			

（注）高校の機関誌購読料は各チーム1冊の年間購読を基準とする。

日本リーグ加盟チーム最終ノミネート

	男子	女子
第1ランク	・大同製鋼 ・湧永薬品 ・本田技研鈴鹿 ・中大	・日本ビクター ・立石電機 ・ブラザー工業 ・田村紡績＝廃部
第2ランク	・大阪イーグルス ・大阪体大 ・日体大 ・三景 ・大崎電気 ・三陽商会	・東京女子体大 ・東京重機工業 ・大崎電気
第3ランク	・オールドイーグルス ・大阪教員ク ・法大 ・日新製鋼呉 ・三菱レイヨン大竹 ・トヨタ車体（実連） ・神戸製鋼（実連）	・日体大 ・東京学芸大 ・東北ムネカタ ・日立栃木
第4ランク	・海上自衛隊下総 ・境港市ハンドボール・ク（鳥取） ・金沢市役所（石川） ・早大（学連） ・中京大（学連） ・スワロー兵庫（教職員連） ・愛知教員（教職員連）	・豊田工機（実連） ・大和銀行（実連） ・ジャスコ（三重） ・北国銀行（石川） ・武庫川女大（学連） ・大阪体大（学連）
	【推せん該当チームなしとした都道府県協会】 福島，三重，大阪，富山，熊本，滋賀，栃木，長野，千葉群馬，	【推せん該当チームなしとした都道府県協会】 福島，大阪，富山，熊本鳥取，滋賀，栃木，群馬，長野，岩手

【未回答都道府県協会】 2月20日現在……34

・（ ）のないチームはいずれも日本協会推せん

全国中学生大会16チームで

全日本総合は内容修正へ

このほか、国内事業では、全国中学生大会の参加チーム数を今年度から「最高男女各16チームまで」とすることに決め、今夏の第5回大会（大阪）は、初の16チーム参加が実現する。（地区割は別掲）

日本リーグ発足にともなう全日本総合選手権は、これまでの高校男女の代表枠を取りはずすことになり、大会法式などについても一部修正を行うとし、執行部一任となった。

すでに、3部合同会議が1年にわたる検討の結論を抽き出し、それに沿った総務企画委案も準備されていると伝えられるが、日本リーグ加盟チームを含めた24チーム前後の一本勝負（トーナメント法式）採用となりそうだ。

国際事業は、本誌6頁所報のとおり、スウェーデン男子「ドロット・ハルムスタード」の招待交渉が明きらかにされ、また、日韓高校交流（日本体協事業）の東京開催も報告された。

第3回東ドイツ交流は、今後の交渉経過をみて、日程編成するが世界1位の女子ナショナルが来日した場合は、そのうち1試合を「第23回NHK杯国際試合」とすることになった。

今年度から各加盟団体事業に切り替えられた「日韓交流」は、全日本実連、全日本学連とも継続を決めている。

高校選抜大会前向きに

新規事業としては「全国高校選抜大会（仮称）」を、前向きに検討する、という注目すべき申し合せが、代議員会で行われた。

小袋代議員の発言がきっかけとなったもので、すでに高校界ではその検討に取りかかっているニュアンスがうかがわれた。

ただ、全国高校総合体育大会（インターハイスクール）以外の高校全国行事はハンドボール界外の他機関の承認を受けなければならず、また、参加者の経済的負担をかけない、などの〝条件〟があるため、かなりの予算裏付けが得られなければならない。

この点について、荒川理事長が『問題が具体化した場合、日本協会と全国高体連ハンドボール部の両者で話し合いたい。基本的には積極的にバックアップしたい』と述べたもので、「全国高校選抜大会」について、ここまではっきり、論議が煮つめられたのは初めてである。

なりゆきが注目されよう。

人事面では、新たに顧問として馬場太郎氏（元・日本協会副会長大阪協会顧問）の推たいが決まった。

また、代議員のうち宮崎が堀之内真澄氏、大阪が前田吉弘氏にそれぞれ変更された。

3年前にスタートした〝高専部門〟はその後、順調な伸びをみせ今年度内に、横の連絡を強める機関発足の見通しがち、渡辺代議員から中間報告が行われた。

同機関（全国高専ハンドボール連盟＝仮称）が設立された場合は日本協会の六つめの加盟団体となる予定。

6地域から2校

日本協会は前掲のとおり、今年度から全国中学生大会の出場チーム数の増加を認めたが、今夏の第5回大会のブロック別配分数を次のとおり発表した。（＝男女共通）

・北海道1、東北1、関東2、北信越2、東海2、近畿2、中国2四国1、九州2、開催地1（大阪）

日本協会への振りこみは
東海銀行（渋谷）に—

日本協会は、このほど取り扱い銀行を東海銀行渋谷支店に変更しました。

日本協会へ銀行振りこみで送金される場合は、次の口座を必ずご利用下さい。

東海銀行渋谷支店「日本ハンドボール協会・当座五二一五八四番」

昭和51年度主要事業日程

- 第6回新シーズン開幕国際試合　ドロット（スウェーデン男子）招待
  4月11～20日，大阪，横浜など各地
- 第10回（女子第5回）日韓学生交流
  6月1～10日，東京，名古屋など各地
- 第16回ＩＨＦ通常総会
  6月上旬　リスボン（ポルトガル）
- 第8回全日本自衛隊選手権
  6月9～13日，東京駒沢屋内球技場
- 第17回全日本実業団選手権（男女）
  5月8～9日，名古屋・東京（＝予定）
  5月13～15日，大阪
- モントリオールオリンピック女子「3大陸代表」決定戦
  6月28日～7月4日，ワシントン
- **モントリオールオリンピック**
  男子＝7月18～28日
  女子＝7月20～28日
- 第27回全日本高校選手権
  8月1～7日　富山県氷見運動公園
- 第18回全日本教職員選手権
  8月9～12日　青森県野辺地町
- 第5回全国中学生大会
  8月17～18日　大阪
- 第3回全国高専選手権
  8月23～24日　新潟県柏崎市
- 第10回（女子第3回）日韓高校交流
  8月中旬　東京
- 第3回全国教育系大学研修会
  8月，（詳細未定）
- 第1回日本リーグ
  男子＝9月
  女子＝9月（詳細は4月末に発表）
- 第26回（女子第8回）全日本学生選抜東西対抗
  9月12日　石川県金沢市
- 第31回国体ハンドボール競技
  10月24～29日　佐賀県神埼町
- 第19回（女子第12回）全日本学生選手権
  11月24～28日　名古屋市
- 第28回全日本総合選手権
  12月8～12日　東京体育館
- 第8回全国実業団男子トーナメント
  52年2月　横浜市

（注）「第5回日韓男子社会人交流（日本側遠征）」「第6回日韓女子人交流(同)」「第23回ＮＨＫ杯国際試合」「第3回東ドイツ交流(東ドイツ側来日)」は未定。

世界へはばたけ日本のハンドボール

（協賛者御芳名・順不同）

建築設計施工
県知事許可（般—48）第1849号
協　和　建　築
代表者　木 村 正 信
奈良市下山町22の1　TEL0742—24 4716（自宅） 5259（工場）

サイエンスの勝利＝抜群の機能性
ADDAX BEST QUALITY SPORTS GOODS
日本ゴム株式会社
足利アサヒゴム販売株式会社
栃木県足利市弥生町15番地　0284—41—2167

BS ブリヂストンタイヤ
那須工場・栃木工場

奈良県ハンドボール協会長
堀　内　俊　夫
〒632　天理市嘉幡町
TEL　07436—4—0132

各種スポーツ用品
田 原 本 ス ポ ー ツ
奈良県磯城郡田原本町
TEL　07443 ② 2253

各種精密プレス加工，金型，省力機器，設計製作
清 国 産 業 株 式 会 社
代表取締役　清　水　国　善
本社・工場　栃木県足利市小俣町西大門2690-1
TEL　0284（62）0513（大代）

住み良いくらし　住みよい環境
（株）**都　商　事** 不動産部
（代）小 野 瀬 都 男
〒329-06 栃木県河内郡上三川町大字上郷1893
TEL　028556—5525（代）

杏林会　金　岡　病　院
堺 市 中 長 尾 町 2 丁 82
TEL　0722—52—2641（代）

スポーツ用具
ノ ダ 運 動 具 店
奈良市三条通り　TEL奈良（22）5662

株式会社　**日　進　商　会**
横浜市港北区樽町701番地
電話　045—541—7881（代）

宝　タ　ク　シ　ー
無線配車センター　052—682—6000番 （ムセンバン）
宝 交 通 株 式 会 社
名古屋市熱田区伝馬町4-13

医 薬 品 卸 売 業
株式会社 **井　上　誠　昌　堂**
代表取締役社長　井 上 塩 六
本社・高岡店　高岡市笹川2600　TEL31-0061（代）

アデダス，プーマ特約店
ヤ バ ネ ス ポ ー ツ
榊 原 康 弘
（第11回倉敷インター・ハイ第3位　清水商高選手）
清水市大寺 2-1-9　TEL 0543-66-1603

クラウン・カリーナ
豊中トヨペット株式会社
代表取締役　小 西 清 海
豊中市稲津町2-4　TEL 06-863-6501（代）

株式会社　**高　田　組**
代表取締役　高 田 義 一
（富山県ハンドボール協会長）
富 山 市 宝 町 1の1

美津濃スポーツ特約店
み な み ス ポ ー ツ
東海市富木島町伏見1丁目
TEL（0560）64—5600

新潟県ハンドボール協会
柏崎市栄町5-16・柏崎工業高校
TEL　02572—2—5178・5179

石打シーハイル・ロッヂ
〜夏は合宿　冬はスキー〜
- 緑に包まれた石打へ，特急で2時間15分
- 駅・グランドまで車にて送迎
- 1泊2食付 2,500円，団体20名以上はご相談に応じます
- 70名収容，冬期シーズンは1泊2食付 3,000円

新潟県南魚沼郡塩沢町関山862の2.　02578 ③ 3229

公認コーチ資格制度検討へ

普及指導部

日本協会普及指導部は、本誌137号既報のとおり、普及活動に新分野を開くべく、積極的な施策を検討しているが、このほど、テーマ別にプロジェクト・チーム（サークル）を編成、問題の掘り下げと具体策の実施を企ることとなり、各チームのリーダーの人選を決めるとともに、スタッフの人選に着手した。

また、47年以来（＝本誌101号参照）、継続検討事項となっている「公認コーチ・指導員制度」についても、これまでの机上論から脱して、施行への準備をととのえることになり、「公認コーチ資格認定制度検討委員会」の発足を決め、委員長に西川勤也氏（日本協会普及指導委員、愛知協会常任理事）を選任した。

◇普及指導部プロジェクトチーム◇

▽「小学部」サークル・リーダー、林正信（愛知）、・メンバー、長谷川信夫、高橋勝義、角紘昭、八神利彦、加納完（以上愛知）高井卓美（岐阜）

▽「中学部」サークル・リーダー、山中善之祐（大阪）、・メンバー、宮崎光市（北海道）、高野尚之（福島）、松林喜久男（石川）砂長誠（茨城）、西川勤也（愛知）中井泰彦（和歌山）、田口和夫（岡山）、楠原敏明（香川）、平井徹一（熊本）

▽「高専部」サークル・リーダー、橋本哲夫（新潟）、メンバー人選中

▽「クラブ」サークル・リーダー、岡田重博（岐阜）、メンバー人選中

▽「研修指導」サークル・リーダー　大西武三（中央委員）、メンバー人選中

6月にクラブ問題全国会議

多範な活動を展開している「クラブ」については、岡田重博委員（岐阜協会理事長）が中心となって実態調査をすすめていたが、同委員によって現況（中間）報告がとどけられた。

この中間報告は、昨年末、各都道府県協会に対して行われたアンケート（回収率48％＝1月20日現在）にもとずくものである。

一、各都道府県協会には、ほとんど「クラブ担当者」が選任されている。

一、各都道府県協会に於ける県内の普及に対しての〝緊急度〟は、中学生対象が圧倒的に多く、ついで少年層、クラブ（特に女子）の順。

一、各クラブの活動の目標は、いわゆる底辺での活動を志向するものが多く、頂点を目指しているクラブはないと少いってよい。

一、前項をうけて、各クラブが「都道府県大会―ブロック大会―全国大会」のコースを望む傾向はほとんどみられない。大多数は「都道府県大会」までを考えている。

これらの結果をふまえて、クラブ問題の将来について極議するため、6月ごろ、各都道府県協会のクラブ分野責任者を集めた第1回全国会議を開くこととなった。

審判審査委が報告書　日本協会審判審査委員会（委員＝入江信太郎、嶋田新太郎、佐藤敦、藤田八郎、村田弘の5氏）は、昨年度につづき「昭和50年度同委報告書」をまとめ、改めて全レフェリーに対し「決断力・責任・自信」を強調している。

3月7日に審判中央研修会

日本協会審判部は、各都道府県協会の審判部長を集めての「審判中央研修会」を3月7日午前10時から東京渋谷の体協会議室で開く。

若い優秀なレフェリー養成を目的とした「特別コース」設定についての検討が、注目される。

なお、「51年度競技規則」（ルールブック）は、3月5日刊行。

投書欄　明日への提言

早急に「練習会」実現を

ハンドボールがやりたい、だけれど仲間がいないし、場所もない。そう思っているかたが、案外多いのではないでしょうか

学生時代に一生懸命やっていたのに、卒業したとたんにプッツリとハンドボールから離れてしまう――。

たまにはからだを動かしたくなります。シュートがしたくなります。

機関誌12月号で読んだ「月例練習会」の計画、早急に実行していただきたく思いました。

実業団のようにとは、とてもムリなことですが、重いからだをもう一度動かして、ハンドボールを楽しみたい。

そう願っている者もいるのです。一カ月に一度でもけっこうです（できれば、一週間に一度ぐらいがいいのですが）

とにかく、計画倒れにならぬようにお願いします。

ハンドボールの普及にも、けっして廻り道ではないと思うのですが。

【東京K・A】

IHF「AHF発足」を通達

早くもアジア選手権を準備

IHF(国際ハンドボール連盟)は、1月28日付文書で、日本などいわゆる極東7ケ国に対し、本誌既報のAHF（アジアハンドボール連盟）の発足を通達するとともに、3月13日午前10時からホンコンのミラマー・ホテルに招集していた「極東連盟」結成準備会議をAHF発足に関する報告中心の会合に〝縮少〟することを伝えてきた。

これは、IHFがかねてから主唱していた「アジアを近東・極東の2連盟に分ける」という提案引き下げを意味するもので、日本協会筋が懸念していたAHF—IHFの衝突はさけられ、極めて常識的に収束される見通しとなった。

日本協会は、3月13日の会合に荒川清美理事長を派遣する。IHFからM・リンケンバーガー事務総長（西ドイツ）も出席の予定。

AHF、活潑に動き出す

一方、AHFは、2月に入って積極的な活動を開始、1月の結成会議へ代表を送らなかった日本など各国に対し、加盟を働きかけるとともに、来年、初のアジアハンドボール選手権開催の計画を明らかにし、各国に開催地の名乗りあげを打診しはじめている。

なお、不明確だった1月の結成会議出席国は、クウェート、中国など8ケ国（このほかレバノンが文書出席）と判った。日本協会は財政事情が思わしくなく欠席していた。

難しい選手権の日本開催

杉山　茂

当然の帰結である。強引に自案(アジア二分案)を押し通そうとしていたIHFも、さすがに〝後退〟を余儀なくされた。

筆者に云わせれば、最後の最後まで二分案を振りかざしていたほうが、どうかしている。

当初からAHFを認めるような後援姿勢を採るべきであって、そうすれば、なんの曲折もなくAHFは、昨年5月に結成できていたと思う。すべて先行していたのはAHF側だったのだ。

さて、日本協会は、クウェート会議の議事録到着後、AHF加盟への公式姿勢を表明するようだがIHFがAHFをパトロネージ（後援）するのはまず間違いなく、オリンピックアジア予選終了後の4月上旬には届出を行うことになるのではなかろうか。

アジア選手権については、場合によっては15ケ国を越す参加を見込まねばならず、財政的にとても開催能力がない。

荒川理事長は「将来いちどは引き受けねばならぬだろうが、ここ4～5年はとてもムリ」と云っている。

ともあれ、AHFの〝一本立ち〟で、アジアハンドボール界の今後は、楽しみがいっぱいである。

（NHK運動部）

来春、初のジュニア選手権

IHF(国際ハンドボール連盟)は、モントリオール・オリンピック以降の各世界選手権の日程を次のように内定、発表した。

モスクワ・オリンピックは、一九八〇年（昭55）七月十九日からの予定

▽第9回世界男子選手権(新制度)
・Cグループ　一九七六（昭51）年十一月、ファロー諸島。Bグループ　一九七七（昭52）年二月二五日～三月六日、オーストリア。Aグループ　一九七ド（昭53年）一月二六日～二月五日デンマーク（アジア代表はA所属）

▽第1回世界男子ジュニア選手権　一九七七（昭51）年三月または四月、スウェーデン

▽第1回世界女子ジュニア選手権　一九七七（昭51）年三月または、ルーマニア

世界女子選手権リポート

重厚な東ドイツスポーツ組織

団長　渡辺慶寿（日本協会技術部長）

近年、東独スポーツ界の進出はめざましいものがあり、常日頃私は興味をもっていた。

幸い第二回東独ハンドボール交流に参加できその裏付を寸分でも知ることができたので、これをお知らせするとともに、今後の日本のハンドボール界の参考資料とするができればと考えます。

これらの資料は、東独滞在の18日間、通訳を通じて知り得たものであり、不充分な面もあるいはあるかと思いますが、スポーツ連盟役員、大学教授、スポーツトレーナーら多くの人達よりキャッチしたものであり、東独スポーツの真随の一端に触れられよう。

◇東独のスポーツ組織　一九四五年東独のドイツ体操スポーツ協会（D・T・S・B）が設立され、その後組織の内容の改良と研究を続け現在の組織となる。当初このスポーツ協会は単なる各地域を中心とした協会であった。それ以前の東独のスポーツは州のスポーツ協会のみであった。現在の東独のスポーツ政策は「D・T・S・B」のもとで行われている（図1）。このスポーツ組織は、大きく分けて二本の柱をなしている。すなわち一、一般人の健康維持、体力向上としてのスポーツ。これは、個人の健康を目的としているが、スポーツが、社会的向上を計る上で効果があるものとしている。この身体活動の中心となるものが、工場のスポーツ協会(BSG)である。B・S・Gはもちろん各地域にある。

二、一方では、スポーツ強化を計ることを目的としている。このスポーツ強化の中心は、S・C（スポーツクラブ）であり、一流の選手の発掘および開発を行っているこれらのB・S・GあるいはS・Cは各地域にある。

すなわちロストック、シュウエリン、ニュウブランデンバーグ、ポッダム、マグデブルグ、ハーレライプチヒ、コットブス、ドレスデン、カール・マルクスス・タット、ゲーラ、スール、エルフルトベルリン、フランクフルト（東ドイツ）の一五県にスポーツクラブがあり、各競技種目の強化を目的として存在している。

各スポーツクラブは、S・V（SPORT-VERBAND。スポーツ協会。日本でいう体育協会のようなもの）の指示によって独自の活動をおこなっている。勿論このS・Vには、それぞれの競技団体があり、その競技種目にそくした、活動を行っている。またS・Vは大学スポーツ協会（H・S・G）あるいは、H・C（大学）の各スポーツの研究をゆだね、その研究成果より、スポーツを施行させている。スポーツクラブは、B・S・Gそして大学、学校より選手の発掘を行っている。しかし大学はその地域にあるスポーツクラブが養成していない競技種目を養成している例がある。ライプチヒにみる例がそうでありラインヒッヒには、スポーツ大学（各地域にあるが東独では、ラインヒッヒが中心となっている）がおかれている。

また、スポーツ大学は単に研究あるいは、選手の養成だけではなく、スポーツの教師あるいは、スポーツコーチの養成も行っている体育の教師、スポーツコーチ達は一年ごとに約六週間のコーチ学や運動学、トレーニング学等の学問の指導を受けている。そして指導者としての知識を得、質的条件を高めている。そのプログラムは、各スポーツの特質によって違い、各競技コーチは、その時期に指導を受けることになる。ハンドボールの指導者は、一五〇名いる。

B・C・Gは、その地域にあるコンビナートの組織であり、S・Cの活動の基礎となっている。B・C・Gにもそれぞれのスポーツ種目があり、それぞれの指導者がいる。たとえばハーレ市にみる、B・C・Gは体育館等の施設をもっており、その地域の一般人（教師、工場員、学生、学童等）のトレーニングを指導している。すなわちスポーツクラブの一段階下のレベルといってよい。これらのスポーツ施設は、私がみた限りでは立派というものより、使用しやすい実用的なものであり、スポーツの普及と健康維持としてのスポーツであり、B・VとK・Vの主体になっている。

合理的で社会に密着した組織

スポーツのアドバンス・クラスとしてのスポーツクラブの活動をベルリンのスポーツクラブを例に

【図1】

東ドイツ・体操，スポーツ協会
(D.T.S.B der D.D.R)
各県単位の理事
(B.V)
スポーツ協会
(S.V)
県地域と町の理事
(K.V)
県の体育(スポーツ)施設
(B.F.A)
地域スポーツ協会の施設
(K.F.A)
工場のスポーツ協会
(B.S.G)
スポーツクラブ
(S.C)
学校スポーツ
大　学
(H.C)
大学のスポーツ協会
(H.S.G)

みてみよう。ベルリンには二つのスポーツクラブがあり、ハンドボール、ボクシング、陸上、スケート、自転車等について強化している。ベルリンのS・Cには、体育館（ハンドボール、陸上の高とびのできる程度の施設とスケートリングトレーニング場等）、陸上競技場そしてスポーツ学校をそなえている。このスポーツ学校は、一般の学校（一クラス二〇名）と同じ、カリキュラムによって運営されているが、優秀な学童を集めているとのことである。このスポーツクラブのスポーツ選手は、全体で一二〇〇名で約一〇〇名のコーチが指導を担当している。年令は一三才以上である。これをハンドボールの例にとってみるとカート・ランケル氏をチーフコーチとして他の三名のコーチがいる。それぞれのコーチ達は、十三才〜十四才、十四〜十六才、十六〜十八才と、個別に一名のコーチが指導をしている。スポーツクラブに加入できるのは、原則として十八才以上の者である。以上がS・Cの例であるが、その他のスポーツ強化の組織して、M・K・E（軍隊の身体教育）がある。

【図2】 D.D.Rナショナル及びクラブの年間計画

	1月〜2	2〜3	3〜4	4〜5	5〜6	6〜7	7〜8	8〜9	9〜10	10〜11	11〜12月
試合期	━		━	━	━						━
体力トレーニング	━	━	━			━		━			
技術トレーニング		━	━			━			━	━	
休息期							━				

D. D. Rハンドボール協会

特定都市でエリート養成

◇**ハンドボール界の強化**　男、女のハンドボールの強化は東独のD・T、S・Bのスポーツ政策のもとに進められ、現在、ハンドボールの強化をしている都市は、男女とも、ベルリン、マグデブルグラインヒッヒ、ロストックの四都市である（サッカー、水泳は、東独の全都市で強化を行っている）。東独の代表となる選手は、この四都市にあるスポーツクラブに所属している選手から選ばれる。またナショナルチームのコーチは、4クラブの各男、女のチーフコーチが担当しており、その上に監督を置いている。

ナショナルチームは、S・Vの中のドイツハンドボール協会（DHV）の指導を受けている。ナショナルチームの選手選考にあたっては、それぞれのコーチが自分達のスポーツクラブでの経験をチーフコーチ（監督）に伝達、最終的には、チーフコーチがメンバーをセレクトすることになっている。今年度の女子のナショナルメンバーは、二十四名であり、世界大会の代表は世界大会三週間前に選考を終了した。尚二十四名の内訳はオールドウーメン十名、ヤングウーメン十四名であり、世界大会には十六名を派遣した。

代表選手には厳しい試験

ナショナルチームメンバーとなる条件は、一、体力。二、運動能力。三、技術面での厳しいテストを行い総合的な判断のもとに選んでいる。そのテストの内容をみてみると次のようなものである。

①スピードテストⅠ、三〇米疾走
②スピードテストⅡ、三〇米ドリブル走
③ボール投げⅠ（七〇〇g）
④ボール投げⅡ（四〇〇g）
⑤敏捷性テスト、十字フットワーク
⑥ジャンプテスト
⑦バーティカルジャンプ
⑧全身持久性テスト
⑨両手両足ジャンプ5回の平均
⑩スピードとコンディションテスト

このほか、運動能力テストとして、
①ジャンプシュート
②二人でのパスワーク等をあげている。

またスポーツクラブとナショナルチームの年間計画も、一貫した考え方でトレーニングを積み重ねている。すなわち年間を二周期に分けて考えている。それぞれの間に試合を行っている。また各種トレーニングは年度の最後の「試合シーズン」に標点をあわせている図—2は、年間トレーニング計画の概要である。

年度のはじめのトレーニングは体力を中心に行っている。①、長距離のランニング（クーパー方式）その後インターバルトレーニングと質的なスピードをともなう全身持久性に入る。②、また筋力トレーハングの場合も同情に最大筋力の七十五％の重量で、腕の筋力、背筋力、そして脚力を鍛えている。③、ハンドボールに必要なジャンプ力についても同様、できるだけ長い時間ジャンプができる能力を養っている。④、その他永泳、サッカー、バレーボールアイススケート等を行っている。水泳の場合は、一〇〇〇米を泳ぎ筋力の柔軟性を考えているとのことである。第二期のトレーニング期間は、一週間をスピードトレーニング、技術トレーニング、ジャンプとスピードトレーニング、そして技術トレーニングパワートレーニング、技術トレーニングと一日おきに体力と技術トレーニングを順におこなっている。この時期の技術トレーニングは体力トレーニングの約半分の練習時間にとどめている。そして第一回の試合シーズンに入り、再び体力トレーニングに入り、この期間の筋力トレーニングの場合は、重量を重くして行う。そして夏季の休暇に入るのであるが、コーチ達は選手達にそれぞれ課題を与え休暇の終了時に前述した体力テストを行い厳しい判定をする。

以上の事柄を実行し、スポーツの強化を計っているわけであるが国家社会全体をユニットとしているスポーツ政策の中にそれぞれのスポーツ種目があり、現在のところこれでよいという結論は、でていないようであるが、一昨年の水泳で世界レコードを続々とだしたよう東独の背景が少々理解できたように思える。東独の球技の中でフットボールに次いでのハンドボールであるが今回手にした世界女子の覇権に、近い将来、男子タイトルも加わって、当分、全盛を極めるものと予想してよい。（了）

世界女子選手権リポート

東ドイツ優勝の背景

監督　井　　薫

第6回世界選手権大会は、東独の優勝でその幕をとじた。第4回のオランダ大会優勝、第5回のユーゴ大会9位、そして今回の優勝といった具合に眺めてみると、東独チームは、強弱両面を併せ持つ荒削りのチームの印象を受けやすいが、実は第5回大会の9位は、予選ラウンドにおけるソ連戦が、双方に幾人もの怪我人が出る、激しいゲームとなり、主力を失った事が原因で、今回すぐにチャンピオンに返り咲いた地力からも、ここ数年まさに世界のトップに君臨しているのが東独といえる。

体格にものをいわせた、力のハンドボールの東欧勢の中にあって流石に東独は攻撃も多彩であり、速攻の展開力も充分、兼ね備えた好チームである。この事は、実力の揃ったクラブチームによる国内リーグが盛んで、ナショナルチームの母体として、素晴らしい活動を続けており、そのクラブチームの実態にふれる事が、東独の強さの秘密につながると思う。東独の街や都市のクラブは、五〜六種目ハンドボール、体操、バレーボール、水泳、バスケットボール（サッカーはグランドの関係と普及度で別格）ぐらいで構成されており体育館に各々の種目のコートを持っており、幼児から、小中学校クラス、そしてジュニア、大学一般のチームが、入れ替り、立ち替り殆んど絶え間なく各クラスのトレーナーの指導に従い、トレーニングに励んでいる姿は印象的であった。

体育館はスペースもゆったりでハンドボールコートの隣りの部屋では、ラバーを敷きつめた中で、ピアノに合わせて床運動や、平均台、トランポリン等をやっているといった具合で、各々の種目が他にわずらわされる事なく、専門的トレーニングをしている。館内は完全暖房で更衣室やシャワールーム、ロビーも広くそしてきれいだまた、医療関係を含む、諸設備の完備は日本では例を見ない様に思える。そしてロビーや正面玄関には、そのクラブ出身の、ナショナルプレイヤーの写真が飾られており、幼児たちが憧れのまなざしで写真に見入っている光景にもしばしばぶつかった。

クラブは又、街や市の行政の中でも、高く評価されており、私達の歓迎ぶりや、宿泊の殆んどが一流ホテルであった事からも、クラブの置かれている位置が推測出来た。この様な事は、クラブの意義がこれら指導者達にも良く理解されている事を示すし、国策としての、スポーツ奨励が、ゆきわたっている事を物語るものであった。

一つの都市で一ゲーム消化の日程であったが殆んど、三〜四泊のゆったりとしたもので、プレイヤーのコンディショニングからは、最上のものに思えたし、外国チームを招く、日本の場合、ゲーム、移動、ゲームといった、プランは一考の余地ありと思った。

次に世界選手権大会になると、各クラブチームの指導者達は、国のハンドボール協会の指示に従い三人一組のチームを作り、予選リーグから総てのゲームの会場に派遣されて、全試合を、ビデオ、実況録音、データと手分けして収集頂点に立つナショナルチームの要請に、対応出来る資料作りが大切な仕事として行なわれている。

これは東独に限らず、各国ともその規模に違いはあれ、関係者を多く送り込んで、総力で戦っている様子は、ナショナルに携るものとして羨らやましい限りであったし、チームドクターも、今回から初参加のアメリカや、チュニジアも同行しているのに、日本チームは何故といった質問もかなり受けた。通訳も、可能であればスタッフが、勉強すべきであるが、やはり専門的知識を身につけた専門家は現場として何にもまして欲しいものである。東独ナショナルチームは第4回大会のエース・クレッシュマルが一児の母となった現在も、チームの柱で、彼女を中心にロングヒッター、ポスト、サイドと、役割に徹したプレイヤーが多い。若手も着実に育っていて豊富な選手層の厚さは、やはり国内リーグの成果といえる。又、メキシコオリンピックに水泳で出場した選手が、レギュラーとして活躍しているのは、日本体協が、東京オリンピック以後、力を入れているトレーナー養成による、すべてに通用する選手ずくりにつながるものとして興味深かった。一貫した指導体系は専門的技術に限らず、オールラウンドプレイヤ育成に役立っていると思えた。日本も愈々国内リーグが開始されるが、軌道にのり、層の厚い普及を見たあかつきには、その頂点に立つナショナルチームも総力を結集し得れば欧州各国と肩をならべる時が来ると痛感した。

世界女子選手権リポート

欧州の壁を破るためには……

コーチ　鈴木　義男

大会は今までにない熱気を含み而も実力伯仲の接戦が多く、大観衆も波瀾万丈のゲーム展開に惜しみない大声援をおくり、雰囲気は最高。名実共に世界選手権大会にふさわしいものであった。

私達もオリンピック出場を念願すると共に待望の決勝進出に照準を合せて持てる力を出し尽して善戦に努めたがヨーロッパの壁は余りにも厚く、ついに予選リーグは全敗に終わり、決勝リーグ進出の夢は完全に打ち砕かれてしまった

改めて、ヨーロッパの壁の厚さについて考えると共に「今回の遠征」を謙虚に反省したいと思う。

先づ優勝した東独をはじめ六位までが社会主義国であることをあげて見たい。

これらの国々では、国の政策としてスポーツを奨励し、広大な組織の中で国としての指導体制を確立し、素質のある選手の発見とそれを育成する所謂エリートコースによるチームの強化が徹底的に実施されている。

私達は、本大会前、国際親善の目的で東独各地を転戦、今更に社会主義国のハンドボールの組織機構の堅実さや、その統一された指導体系の内容の充実ぶりに驚ろかされた。当分の間は他の如何なる国もこの堅塁を抜くことは不可能とさえ思われる。

ある日、私達は一クラブの練習場を訪れた。そこでは子供から大人までスポーツを楽しんでいるのではなく、精魂を打ち込みつつ、自らをきたえ抜いているのを目の当り見て東独の強さ、むべなるかなと感ずる反面、日本の現在の組織や環境ではどうにもならないことを痛感しつつ、そこを辞した。

次に試合を通じて感じた事を述べて見たい。その流れはパワーハンドボールから技・走のハンドボールに移行しつつあると思うが、今大会ではその域に達していると思われるのは上位二・三チームで他はまだパワーハンドボールに終始している。小柄な日本は、体格差に物を言わせての強引な突込みポストプレーや豪快なロングシュート等に振りまわされて随分苦しめられた。クロスプレーは極端に減っている。即ち、大きなフェント技によるディフェンスの切りくずしは基本通りで見ごたえがあったが、クロスプレーをおりまぜてポジションを入れかわりながらの変化攻撃は、余り見られなくなった。（前回の場合は随所に見られたが）良否はとも角、今後の課題として研究を進める必要があると思う。

ダニエルセン（ノルウェー，188cm＝右端）の攻撃を受ける日本。欧州の壁は高く厚い。

とに角、今後日本が、ヨーロッパの壁を破るためには、勝敗よりもっと原点に立って、社会主義国の組織に目を向けて研究しなければなるまい。その域に一挙に到着することは至難かも知れないが、国内に於ける組織の拡充と強化、機構の改革と合理化など最善の努力を傾け、東独のそれに一歩でも近づき得るような指導体制の確立を図ることが急務ではあるまいかそれには先づ指導体系の一本化についての具体策を考え、実現を期さなければならない。

即ち所属チームとナショナルチームとの指導規範が一致していなければならないし、そうでなければ、財政的にも日数の少ない合宿では所期の成果は望むべくもない統一体系の出来ることを心から望むものである。

かくして、全員参加のナショナルチームとしてのイデオロギー確立を図り、ここに基盤を求めて行かなければ、何をやって見てもナショナルチームの育成は、砂上に楼閣を築くにも似て徒労に終わるのではないか。

第三点に、底辺の拡大をあげたい。即ち身体的条件に恵まれた人達の発見育成に力を尽し、層の厚さを質的にも量的にも充実するよう努力すべきである。

同時に「パワーとスピード」を指導理念として行くことが特に肝要であると思う。

また日本人は、その場の雰囲気や環境に極めて敏感で、何事にも順応しやすいが、それだけに、一寸した事に自分の行動を左右される事が多く、期間中にコンディションを乱す事も間々あるので、物事に動じない根性の持主になるよう、徹底的にきたえあげることを忘れてはならない。

ヨーロッパの壁は厚くこれを打ち破るにはいぜん、数多くの問題が山積しているが、パワーにはパワーで対抗できる素地をつくり、それに日本独自の技術であるスピードの養成を忘れてはならない。

勿論、欧州諸国との交流は、遠征、招へいなどの方法で、絶え間なく続け、根気よく、辛抱強く夢を将来に託して、限りなき前進を続けるべきだと思う。

また、各層の指導者や、かって渡欧された先輩諸氏との間に、コンタクトの場と機会を持ち「日本のハンドボール」について、徹底して論じ、新しいステップを踏み出すことも、不可欠であろう。

今までの国内に於ける選手強化について反省もし責任も痛感しているが、今後は多数の人達の意見を聞きながら研究の輪をひろめ更にたくましい選手の育成を目ざして精進を重ね努力を続けていきたい。

IHF審判講習会　報告5

～M・リンケンバーガー氏の講演～

安藤　純光
岡前　義春

IHF審判講習会に出席したIHF理事長（事務総長）マックス・リンケンバーガー氏（西ドイツ）は、講習会第5日の午前中に各国審判部長および国際審判員を前にして次のような興味深い講演を行なった。

（講演） 14日前に私は、はじめて公式な資格をもつ者としてユーゴスラビアのハンドボール学校へ行った。その際、私は23カ国からの400名の参加者のために質疑応答の時間をもつことを約束しました。理事長は、公式にはただ加盟国およびその会長らと共に、またはIHFの内部において理事会および各委員会と共同で仕事をし、結びついてきたのである。このような私（理事長）にとって、底辺の意見――すなわちIHFについての批判と称讃――を知るということは興味ある実験であった。それはやっただけの甲斐があり、大変得るところがあった。

質問の4分の1は、組織上の問題であったが、4分の3はもっぱらルールと審判に関する問題であった。これは質問者が「第一線の」スポーツマン、すなわち世界中のコーチ、レフェリーおよびプレイヤーであることを考えればきわめて当然のことといえる。けれども私は、まず最初に、その際にえた根本的な認識を確認しておきたいと思う。それはほとんどすべての加盟国について言えることだと思うが、連盟内部における下部への情報の流れが悪いこと、あるいは全く欠けているということである情報サービス、回覧状、その国のハンドボール新聞または地域のハンドボール新聞など各国連盟のもっているPR活動の諸手段が、あまりにも利用されることが少ないように思われる。その結果として大部分の質問や批判は知らぬが故に、また誤った情報から出たものであった。問題とその解決よりも末端のクラブにまで明確に知らせるために何らかの方策を講ずることが急務といわなければならない多くの不平不満、誤解、誤った評価、誤った行動は、これによって避けられるのではないだろうか。

次のテーマが批判的に取りあげられた。

I　ルールが悪いために、ここ数年来プレイはますます激しさを加えるばかりか粗暴にさえなっている。

(a)　チームプレイの競技では、ルールがわかりやすく、プレイの全貌をつかみやすく、そして簡単明瞭であることが観衆の獲得に成功する最大要件であることは明らかである。さらにその上に、細部には問題はあるが、長年にわたってルールが不変であるということが加われば、この不変性は真の国民スポーツとなるための前提条件である。

(b)　たとえばあるプレイヤーあるいはコーチの場合が多いが、何か新らしいトリックプレイを発見したり、また逃げ道になるような小わざを見つけたときに、いちいちこれのためにルールを変更したり、これを取り締るための条文を設けたりすべきだという意見には私は賛成することができない。もしこのような完全主義を実施したとすれば、それでなくてさえすでに非常にこまかいルールとその註釈は、さらに一そうつかみにくくなり複雑になるばかりで終局的にはルール全体を余すところなく把握できなくなるであろう。

(c)　ハンドボールのプレイおよびその運営管理の発達のために絶対に必要な場合におこなわれる、プレイの実体を本質的に変えるようなルール変更には、私は断呼として賛成する。もちろんこれは、一九七四年の会議で議決されたように、オリンピックの4年周期のうちで、オリンピックの年に行なわれる会議においての許されるものである。これには各自の根本的な決定の資料を欠いて行きあたりばったりの投票をすることのないように、決定的な会議の前にある程度の時間をおいて準備の予猶を与えて、この根本的補充的なルール変更を討議にかけ、またテストによって検査されなければならない。

(d)　最後に私は諸氏に一つの話をしたいと思う：一九七五年二月にユーゴスラビアは中国へ遠征した。全く驚いたことに**中国のレフェリーは実に優秀であった**ことである。もちろん完全無欠というわけではないが、笛の吹き方もよく決して平凡なゲームばかりではなかったが常にペレイを掌握していたのであった――これは一九七二年のオリンピックの優勝チームとのプレイでも同じであった。これらは専門家の一致した意見であった。さらに立ち入って質問をしてわかったことであるが、中国のレフェリーたちは他と隔離されているので国際的なレフェリー講習も知らず、またプレイの管理について中国以外の方え方および教材などについて全く何らの接触をもたないことがわかった。彼らはIHFのルールを収めたH and-bookただ一つしか知らなかった。そしてわれわれには複雑すぎるスポーツ界の中で全く単純なことを行なったのであった：彼らはルールとその註釈を徹底的に覚え、身につけ、こなして感情に動かされることなく、とりわけ、人物クラブの名声にとらわれず、自国の利益を考えることなくこれらのルールを適用したのであった。

さらに質問を進めてわかったことは、特別に補足的な講習は全く不必要だということであった。なぜならば、われわれは読むことができるのである。そして読めば、すべてのことが正確に記述されているからである。これ以上簡単なことはないのである。

私はこの話をユーゴスラビアにおいても質問者や聴衆の諸氏に、次の論理的結論を加えて話をした

すなわち、ルールそのものが絶対に悪いとか、または問題があるというのではない。問題はルールを適用する人々、または適用しなければならない立場にある人々にあるのである。

Ⅱ　ハンドボールのプレイの激しさに反対し、これに対して宣戦を布告し、自国の内部においてレフェリーによってそれを徹底している国々は、国際試合に際して何をおいても勝判のみを重要視し、激しいプレイを許しているばかりでなくそれを奨励してさえいる国々に対して不利である。

国際ハンドボール界をよく知っている人々は、IHFの内部にプレイの考え方とプレイの指導管理について次の二つの方向が対立して存在していることを知っているであろう。

(a)　ハンドボールのプレイが粗野乱暴になることを嘆き憂い、そして自国内においても実際にプレイが指導管理の仕方およびレフェリーの基本として粗野乱暴化することを防ぎ、とり除くためのなんらかの措置を講じている国々：

(b)　絶対的、独占的勝利をすべてのスポーツ活動の尺度とし、そのためにはすべての手段を用いる：すなわちルールの間隙、細部の解釈の不明確な点、コーチによる新らしいトリックの案出、プレイヤーの誤った態度や心構え、レフェリーの権威を不確実にし、またあらゆる種類の人間的弱さを情け容赦なく利用しつくし、勝利を獲得するためには観衆・マスコミも使○煽動することも敢えて辞さないという国々。

IHFおよびハンドボールはまさに岐路に立っているのであり、私は一九七二年スイスのマクリンゲンにおいて行なった詳細にわたる講演を再びここに繰り返さざるをえない。すなわち、スポーツ的な洞察と理性が失われたようなところでは、IHFおよびその技術委員会によってきびしい規制措置を講ずることもまたやむをえないということである。

かかるスポーツ的なジレンマを解決する鍵は、レフェリーのパーソナリティーをおいて他にはないのである。

Ⅲ　レフェリーの大多数は良くない。

この主張は一般に相対的なものであり、それぞれの見方によって異なるものである。レフェリーの中にはたしかに、自分の任務を完全に理解していない者、ルールを首尾一貫して適用しえない者または不安定で周囲の影響を受けやすい者もいる。私は悪意をもってまたは悪い意図をもってとりつがれた正しくないまたは悪い笛の吹き方をとりあげたくはない。だが一つだけ言っておきたいことがあるそれはレフェリーとして決して魂のない機械ではなく長所もあれば短所もある人間であるということである。したがって、日によって出来、不出来があるということである。しかし、たまたま不出来の日があったからといって直ちにこれをもって、全くの不能のレッテルをはってののしったり、またその悪い評価を断定してしまうことに私は賛成しかねる。

多くの批判者は、本質的に重要な点を常に故意に見のがしている：すなわち、原因とその結果である

原因：意識的または無意識的にまずプレイヤーによって誤ったことがなされる。その結果として、誤った行為に対してレフェリーはルールに従って対応措置に出なければならないのであり、また出るべきであるということである。

レフェリーがとるべき手段の選択をかりに誤まった場合、これを批判する以前に、それを惹きおこしその原因をつくったというこの原理をたびたびコーチやプレイヤーの目の前にはっきり示すべきが本来であろう。講習やシンポジウムにおいては遺憾ながらこの問題についての発言をあまりにもわずかしか聞くことができなかった。

これに反して、プレイのモラルやスポーツウェアーネスについて徹底した詳しい論議がなされたのであった。

プレイヤーたちは、ゲームの全時間中に多くの誤りをおかし、いくたびも絶対確実なチャンスを放棄し、また全く誤った戦術をとるようなこともある。ところでレフェリーは、はげしく身体を使いめまぐるしいプレイの推移にしたがわなければならないが、このレフェリーが一度でも人間的な誤ちをおかすと、しばしば無知な観衆は口笛を吹いて騒いだり、コーチやチームの世話やきたちは手を高く上に伸ばしたり、両手で頭をかかえたり、またプレイヤーも自分で誤ちをおかすくせに同じような身振りでレフェリーに対する非難を煽りたて、そして最後にはマスコミの代表たちから攻撃されるようなことも起る。だがレフェリーをこれほどまでに責めるべきではない。

このようなことは、あってはならないのであり、私はレフェリーに意識的な不正な意図が認められない限り、純粋に人間的な理由からレフェリーの味方の側に立つものである。

Ⅳ　レフェリーの訓練ができていない。レフェリーの監督が不充分である。運用が間違っている

ルールとレフェリーの委員会（JHF・RSK）は一九七三年ブルガリアにおける前回のレフェリー講習会、一九七四年のスイスにおけるシンポジウムおよび一九七四年のイタリアにおける会議などにおいてさまざまの措置について広範にわたって提示した。例えばIHF内部におけるレフェリーの制度を如何に改善し得るかもその主要な一つである。RSK(Regel und Scheid.srechter Kommition）のみがひとりそれに対して責任をとりえないという理由から、大部分は従来理論のみにとどまり、きわめて遅々とした進展しかなかった。私自身はこれに決して満足してはいない。しかしながらたしかに、実際には多くの計画は、例外的なものは別として残念ながら実現を見ていない。これは私の判断するところでは、より高度な権力の賛同を得なければならない諸理由によるものである。

次の諸企画が実施されようとしている。

(a)　レフェリー観察記入用紙

これはレフェリーの能力を判断するための非常に重要な書類であるが、今日の成案をうち出すまでに長い時間を費してしまったのである。その甲斐があって今や非常によく整理されて、すぐれた註釈がつけられ実現し得るという利点をもっている。この観察表は是非とも本年のECの試合、ならびにオリンピックのヨーロッパ・グループの予選試合に使用されなければならない。したがって直ちに印刷にまわされなければならない。

私の見解によれば、これは3通つくられるべきである：すなわち、RSK、総務および必ずしもいかなる場合にもということではない

が担当したレフェリーの審判主任の3通である。不必要な官僚的な乱用は避けるべきである。

(b) IHFのレフェリーのための資格判断基準は、一九七三年以来根本諸原理のうちに明示されてあるので、もはや原則について討議することなくIHFならびに個々の国々の作業計画および作業指導の中へとり入れて差支えない。IHF良い企画の実現には余りゆっくりしていてはならない。IHFの世界は、それを心待ちにしているからである。理論は明かにされている――そして実行は、レフェリーの水準を著しく高めそしてIHFに対する活動不充分という批判は沈黙するであろう。

(c) IHFのレフェリー表は、将来真に資格を有するIHF・レフェリーの名簿とならなければならない。この名簿は、それぞれ加盟諸国によって2通づつ申告提出され、さらに外国語の知識について記入し整備されるようにすべきである。

(d) レフェリーの起用は、さまざまな理由によって批判されている。これについて私は、私の個人的な見解を述べておきたいと思う

1 IHFの大きな大会に際してのレフェリーの決定は、前と同じくRSKによってなされる。この決定は、RSK委員長の全責任において行なうものとし、委員会のメンバーに意見を求めることは差支えないが、これを決定に参加させることは許されない。

――一九七四年の東独における前回の世界の世界選手権大会の際に異議の申し立てがなされたように――、大会会場が遠くはなれている場合および時間の充分ない場合、レフェリーの決定には委員会のメンバー全員が出席していなければならないということは必ずしも必要ではない。これによって更に時間が余計にかかり、また主催者にとっては負担もかさむことになるからである。上記のような場合には電話によって次々と連絡をとることもできる。

2 あらゆる機会、いかなる場合にもただ決定的にトップクラスのレフェリーの起用のみを求めることは間違っていることは間違っている。このようなことを求めれば、これらのレフェリーは必ず過大な負担をしなければならなくなり、やがて要求に応じられなくなることは間違いない。レフェリーの後継者となる者を世界選手権とオリンピック大会の中間の期間に起用する機会をふやして彼らに国際的な経験を積み、そして熟練を加えるチャンスを与えるべきである。トップクラスのレフェリーといえども時には不出来の時もあるのである。それ故にわれわれは後進のレフェリーたちに対して忍耐と理解をもってのぞまなければならない。またただ「知られた名前」のみにいたずらに固執することを捨て去る勇気をもつこともまた必要なのである。

3 すでに昨年もそうであったが国際的なレフェリーは決定的に不足しているのである。それ故に国際的な場における後進のレフェリーを是非とも養成することが必要なのである。RSKが本年のレフェリー起用をいかに解決してゆくかは私にとっては謎である。

男子および女子のヨーロッパカップの拡大、オリンピックのヨーロッパグループの決定戦、ヨーロッパ以外のIHFの諸大会などへのレフェリーの起用、さらに大きな交歓競技および国対国の各対抗戦などへのレフェリーの起用――しかも、これらすべてを中立を維持し主催者の財政的支出を最少限におさえ、必要な欠勤またはそれ以上の休暇をとるなどの諸手続きなどもしなければならないのである。

4 国際的レフェリーは、少なくとも一つの外国語を必要なことが通じる程度にできることが絶対に必要である(英、仏、独)。すなわち問題なくレフェリーができる程度の能力はもたなければならないのである。またレフェリーの主任は、国際的に申告されたレフェリーに基礎語学講習の履修をさせるようにすることも任務なのではなかろうか。

さらにレフェリーは、外国為替管理の行なわれている国々において、あるいは自由に両替えし得ない国々において彼らの旅費をその主催者から規定通りに直ちに受けとり、そして数カ月後にようやくIHFを通じ苦心して入手するなどということのないように保証されていなければならない。

私は以上ここ数年の理事長の諸々の経験から出発して、RSKとの共同作業およびユーゴスラビアのハンドボール学校における質問に基づき、さらにまたルールおよびレフェリーの問題に関する個々の対話に基づき、さらにまたルールおよびレフェリーの問題に関する個々の対話に基づいて、理事長の職の立場から一般的な諸問題について話をした。私の述べたことは、いつもの通りあけっ放しで遠慮がなく、したがって必ずしも諸氏にとって快よいものばかりではなかった。しかし私の述べたことは、要するにもっぱらハンドボール競技のために役立つことでありさらに今後の発展および強化に役立つことであろう。 (了)

世界へはばたけ日本のハンドボール

（協賛者御芳名・順不同）

株式会社　東口電機製作所
社長　東口武雄
奈良市二名町2603
TEL　0742―44―6161

中川石油株式会社
〒020　盛岡市菜園1丁目7番17号
電話（0196）23―(代)3241

医薬品並に健康関連総合商社
（株）　小田島
本社　花巻市上町6―5　〒025 TEL01982-3-5162(代)
営業所　花巻，盛岡，水沢，一関，大船渡，釜石，宮古，久慈，青森，八戸，弘前，むつ，仙台，石巻，古川，気仙沼，秋田，大館，横手

うつくしく　うつくしく　よりうつくしく
Wacoal
ワコール

コロナとマークⅡの
岩手トヨペット
本社　盛岡市上田2丁目　TEL(51)3211（代）

株式会社　久保田鉄工
代表者　久保田　広一
八尾市南本町四丁目九番一九号
TEL0729―23―0292

上田茂行

東海溶材株式会社
本　社　清水市北脇242
支　店　浜松市下石田町1743の1
営業所　小山，東京，相模原，三島，富士，三保，焼津，大井川，掛川，豊田，名古屋，四日市，大阪，富山，広島

株式会社　横山商店
横山　豊
（第3回インターハイ準優勝清水商高主将）
清水市渋川468　TEL0543―45―3482

アサヒスポーツ
福井市松本3丁目4―2
TEL　0776―23―2555

広島県ハンドボール協会長
川上病院
広島市曙町2～33
TEL0822―61―3782

富士重工指定スバルサービス工場
（有）　野田商会
野田　勉
（第9回インターハイ優勝清水商高選手）
清水市万世町1丁目69　TEL0542―52―6750(代)

学生衣料製造卸
株式会社　島屋
高岡市間屋町41

北陸電力株式会社
福井支店
福井市日之出1丁目4番1号　〒910
電話（0776）㉓1212番（代表）

屋内外電気工事設計施工
火災報知機設備施工
伊藤電機設備株式会社
代表取締役　伊藤仁和
福井市順化2丁目2番1号　〒910
TEL　営業部(0776)22-7800(代)　工事部21-2266(代)

ヨーロッパの味
タキザワハム
取締役社長　滝沢　武

ブリヂストンタイヤ（株）彦根工場
〒 522-02
滋賀県彦根市高宮町211番地
TEL（07492）2-8111代表

不動産の　カントラ　大阪・堺
TEL　0722―33―0003
0722―22―2103
フドウサン

☆★☆★☆★☆

海外トピックス

杉山茂
（NHK運動部）

男子はオリンピック予選のさなか、女子は世界選手権直後とあって、ヨーロッパ球界は、ビッグトーナメントが少なく、もっぱら、昨秋以来の全国リーグが大詰め近くとなって、ファンを熱狂させているようだ。

例えば、最近、訪欧して戻った元全日本選手・近森克彦氏（三陽商会）の話によると、西ドイツのブンデス・リガは、来季から現在の南北地2区24チームを、10チームのグループに再編成することもあって、各試合とも、「すばらしいというよりすさまじいと表現したい激戦をつづけている」という。

今月は、目をヨーロッパからはなして、他地域の動きを中心にお伝えしよう。

キューバで国際大会

キューバで、初の本格的な国際トーナメントと思える大会が、昨年くれハバナで開かれた。

「友好杯」と名付けられ、東ドイツ、ポーランド、ソ連、チェコの4強豪が遠征、キューバナショナルA、Bとあわせて6チームによるリーグ戦という豪華なもの。

国際舞台に顔を出して日の浅いキューバの、この積極姿勢は注目され、友好各国のレベルが高いだけに、躍進が期待できる。

大会の結果は、東ドイツが4勝1分（ソ連と19―19）で優勝、以下、ポーランド、ソ連、チェコ、キューバの順。

アラブ諸国も活溌

第1回パン・アラビアントーナメントと銘打った国際大会が、昨年11月、カイロで行われた。

地元エジプトがクウェートを4点差で降してチャンピオンとなった。3位はモロッコ。

興味深いのは、アジアハンドボール界にあって、実際に競技活動を行っているのかどうか、〝疑問符〟が打たれていたサウジアラビア、バーレン、イラク、それにパレスチナ、リビアなどがチームを送りこんでいることだ。

IHF（国際ハンドボール連盟）広報111号によれば、この大会にはP・ヒョークベルクIHF会長、F・ペデルセンIHF会計役員も招かれており、リヤドを本部とした「アラブ・ハンドボール連盟」の発足も報じられている。

関心高いアフリカ地域

アフリカ諸国の動きも活溌のようである。

オリンピック（男子）予選は、4月10日から19日まで、ナイジェリアで開かれる第2回アフリカ選手権の結果で決められるが、有力とみられるアルジェリア、チュニジアなどの強化策は極めて積極的である。

注目したいのは各国内の関心の高さで、サッカーにつぐ人気と云われ、例えば、このほど行われた「アルジェリア競技会」では各試合（5日間）とも六千をこすファンを集め、警官が出動して観衆の整理にあたったことが、2回もあるとう。

若いスポーツ・ハンドボールに熱をいれる新興各国の今後の動きを見守りたいものだ。

西ドイツの専門誌廃刊

昭和28年1月に創刊され、世界中のハンドボール愛好家に親しまれていた西ドイツの「週刊ハンドボール誌」が、昨年12月30日号をもって、突然、廃刊された。

ハンドボールの週刊誌が刊行されているのは、本場・西ドイツならではのことだったが、一昨年あたりからページ数を減らすなど、経営の苦しさをのぞかせていた。惜しい雑誌である。

日本でも、定期購読者がかなりおり、光島磯雄氏（元日本協会理事）が、いちぢ極東地区のリポーターをつとめていたこともある。

ヨーロッパカップ

男子（第16回）は、1月末までに準々決勝が終わり、ベストフォアが決まった。

注目のグンメルスバッハ（西ドイツ）×スラスク・ウロクロウ（ポーランド）は、第1戦を15―22で落としたグンメルスバッハが、ウェストハーレンホールに九千五百のファンを集めた第2戦では、抜群のジャンプ力をもつ新星デッカラムの活躍で20―11と雪じょく、辛くも準決勝進出を決めた。

対抗と目されるボラックバンヤルカ（ユーゴ）も、カルピサ・アリカンテ（スペイン）の健斗に苦しんだが28―21、18―18で振り切り勝ちあがった。

しかし、クレミコフジイ・SC（ブルガリア）は、フレデンボルー・オスロ（ノルウェー）に、第1戦14―20と敗れたのが痛く、ホームを19―14でとりながら退いた。

4月来日を伝えられるドロット（スウェーデン）は、1回戦でオスロに敗れている。

オリンピック 欧州予選大詰めへ

モントリオール・オリンピックのヨーロッパ予選は、2月3日ナポリでのイタリア×チェコ戦で再開され、2月18日、第3節を終了。残るは14試合となり、3月8日晴れの7代表が出揃う。

第3節では、東欧各国が順当に勝ちこんだのに対し、デンマークが乗りこみのオランダ戦を引き分け、スペインとの代表争いを微妙にした。

土俵際の東ドイツはベルギーに17点差をつけ、これで得失点差は30（3試合終了）。

西ドイツは2試合を終えて14、ベルギー戦（2月26日）で、この貯金をどう増やすか。そして、いよいよ3月6日東西対決である。

なお、アメリカ大陸予選決勝・アメリカ×アルゼンチン戦は、すでに終わっているハズだが、結果は入電していない。

デンマーク、オランダと分ける

第3節（2月2～13日・各地）

▽第1群
ユーゴ（3勝）27（12－6、15－5）11 ルクセンブルグ（3敗）
（残りカード）アイスランド×ルクセンブルグ、ユーゴ×アイスランド各2回戦

▽第2群
チェコ（2勝1敗）21（12－3、9－4）7 イタリア（3敗）
（残りカード）スウェーデン×イタリア、スウェーデン×チェコ

▽第3群
ハンガリー（3勝）16（6－7、10－8）15 スイス（1勝2敗）
（残りカード）ブルガリア×スイス、ハンガリー×ブルガリア

▽第4群
ソ連（3勝）21（12－7、9－5）12 オーストリア（3敗）
（残りカード）フランス×オーストリア、ソ連×フランス

▽第5群
東ドイツ（2勝1敗）35（20－11、15－7）18 ベルギー（3敗）
（残りカード）西ドイツ×ベルギー、東ドイツ×西ドイツ

▽第6群
ポーランド（3勝）50（22－5、28－6）11 イギリス（3敗）
（残りカード）ノルウェー×イギリス、ポーランド×ノルウェー

▽第7群
オランダ（1分2敗）17（11－8、6－9）17 デンマーク（1勝2分）
（残りカード）スペイン×オランダ、デンマーク×スペイン

トヨタ車体が優勝

第7回全国実業団男子トーナメント

2位に神戸製鋼

第7回全国実業団男子トーナメント（第16回全日本実業団選手権男子トーナメントの部）は、2月8日から11日までの4日間、京都府・舞鶴市体育館、海上自衛隊舞鶴教育隊体育館の両会場に32チームが参加して行われた。

本命なしの大会という前評判どおり、激しい試合が連続、有力チーム同士のつぶしあいなどあって大いに盛りあがったが、優勝はトヨタ車体(愛知)×神戸製鋼（兵庫）の初顔合せで争はれ、トヨタ車体が前半のリードを活かし、初のビッグタイトルを手中にした。

トヨタ車体と神戸製鋼は、3月7日、名古屋で、日本実業団リーグ入りをかけて、同リーグ7位三菱レイヨン大竹(広島)、8位日新製鋼呉（広島）と入れ替え戦を行う。

東京重機、緒戦で姿消す
海上下総、大同高蔵破る

▽1回戦

海上舞鶴（京都）22（8—6 14—10）16 日本原子力研究所（関東・茨城）
金沢市役所（中部・石川）26（16—4 10—8）12 IHI呉造船（中国・広島）
大阪ガス（近畿・大阪）24（12—9 12—12）21 北陸電力福井（中部・福井）
陸上勝田自衛隊（関東・茨城）27（13—2 14—7）9 鐘渕化学（近畿・兵庫）
丸善石油松山（中四国・愛媛）12（4—7 8—4）11 東京重機（関東・東京）
トヨタ車体（中部・愛知）33（21—7 12—5）12 日鉄建材（近畿・大阪）
安田生命（関東・東京）22（12—10 10—7）17 三菱油化（中部・三重）
大山商会（近畿・大阪）16（6—1 10—6）7 武田薬品光（中四国・山口）
セントラル自動車（神奈川）17（7—7 10—9）16 二和家具（中部・岐阜）
海上下総自衛隊（千葉）19（9—5 10—4）9 大同製鋼高蔵（中部・愛知）
住友化学菊本（愛媛）32（17—9 15—4）13 大成プレハブ（関東・東京）
日本発条横浜（神奈川）19（6—9 13—3）12 日本鋼管福山（中四国・広島）
丸善石油下津（近畿・和歌山）23（15—7 8—8）15 三井石油化学千葉（関東・千葉）
新日鉄名古屋（中部・愛知）23（10—7 13—7）14 川崎重工（近畿・兵庫）
三井石油化学山口（中四国・山口）24（11—5 13—4）9 京都信用金庫（京都）
神戸製鋼（近畿・兵庫）22（14—4 8—11）15 海上鹿屋自衛隊（鹿児島）

○……優勝候補の一角とみられた重機が丸善松山に逆転負けした以外は、順当な結果だった。

重機は後半15分まで11—5と圧倒的だったが、そのあと強引な攻撃が目立ち無得点、丸善は神野の巧技を中心に追いあげ、27分同点のあと、タイムアップ寸前篠原が逆転シュート、みごとな粘りを示した。

日発×鋼管は好内容。後半11分11—11に追いついた日発は、石塚守田らのたたみかけで、一気に主導権を奪った。

丸善石油松山力つきる
住化、海上下総をかわす

▽2回戦

金沢市役所 29（19—3 10—11）14 海上舞鶴
陸上勝田 21（10—6 11—10）16 大阪ガス
トヨタ車体 17（12—3 5—12）15 丸善石油松山
大山商会 24（14—4 10—9）13 安田生命
神戸製鋼 15（6—3 9—3）6 セントラル自動車
住友化学菊本 19（9—5 4—8 : 3—1 3—1）15 海上下総
日本発条横浜 18（7—8 11—9）17 丸善下津
新日鉄名古屋 13（8—5 5—7）12 三井化学山口

○……激戦がつづいた。特に日発×丸善下津は目まぐるしい展開。

下津が終盤、松本の巧技で逃げこんだかとみえたが、日発は残り2分半、16—17から2点を入れて逆転した。9得点したベテラン北村の活躍が大きかった。

トヨタ×丸善松山は、松山が後半17分8—16の劣勢から前日同ようの追いあげをみせ、29分15—16とし場内を沸かせたが、トヨタは残り30秒、ダメ押し点を加えた。

新日鉄×三井は、前半の優位を活かした新日鉄が、後半も竹上の好シュートで加点、10分12—6と放した。三井もムラのない得点力で反撃したが、1点差に詰めたところで時間が切れた。

住化×下総は、延長後になって住化が地力を発揮、善戦の自衛隊チャンピオンをかわした。

大山、住化菊本ら退く

▽準々決勝

陸上勝田 18（11—5 7—9）14 金沢市役所
トヨタ車体 19（6—5 13—5）10 大山商会
神戸製鋼 11（3—3 8—6）9 住友化学菊本
新日鉄名古屋 26（14—3 12—14）17 日本発条横浜

○……勝田×金沢は、有利とみられた金沢が、前半なかばすぎ得点が伸びず、20分2—8とされたのが響き、後半の追撃も遅かった。

トヨタ×大山は、後半開始直後大山がいちどペースに乗りかかったが、トヨタは宮松を中心にした速攻ですぐに主導権を取り戻し、終盤は一方的に押しまくった。

神戸×住化は、実力互角にふさわしいせりあいとなり、残り10分9—8から神戸が笹野の連続ゴールで3点差、勝負を決めた。

新日鉄×日発は、新日鉄が波に乗った攻撃を示し、後半8分19—3、期待はずれの凡戦に終った。

神戸製鋼の速攻光る

▽準決勝

トヨタ車体 15（6—5 9—6）11 陸上勝田

◇歴代優勝チーム

①昭44 宗形製作所（大阪）
②昭45 ワクナガ薬品（大阪）
③昭46 住友化学菊本（愛媛）
④昭47 大山商会（大阪）
⑤昭48 日新製鋼呉（広島）
⑥昭49 日新製鋼呉（広島）
⑦昭50 トヨタ車体（愛知）

得	【トヨ】		【勝田】	得
0	遠山	GK	高橋	0
0	近藤	GK		
11	宮松	FP	宮川	2
0	山田隆		小松	1
2	高橋		大坂間	0
2	横尾		藤枝	2
0	大塚		増田	0
0	牧		池田	0
0	荒木		額賀	3
0	松本		高岡	3
0	山田透		野高	0
0	山口		大輪	0
15	(1)	PT	(1)	11

（審・梅田、藤本）

○…勝負のかかった後半、トヨタはエース宮松の好判断、好シュートで15分12—8とした。このリードで守りも固まったため、一本調子の勝田は、前半ほどチャンスがつかめず、25分10—13としたまま振り切られた。（福井喜昭）

神戸製鋼 21（10—3、11—6）9 新日鉄名古屋

得	【神戸】		【日鉄】	得
0	大谷	GK	岩上	0
0	松原	GK	服部	0
0	江口	FP	伊藤	3
6	河内		阿久根	1
2	山本		上之園	0
0	中尾		石川	2
2	須藤		平野	0
1	赤嶺		竹上	0
0	藤谷		鮫島	0
7	笹野		渡辺	2
0	柴田		鏡味	1
3	山崎		村上	0
21	(2)	PT	(1)	9

（審・吉田、福井）

○…神戸はGK大谷の好守から速攻機をつかんで着々とポイント

一方、新日鉄はコンビネーションプレーにずれがのぞき、序盤の好機を逃した。

後半も同じような展開で流れたが、実力はスコア差ほどなく、開始直後のペース造りの巧拙がすべてを決めた　（新井節男）

▽3位決定戦

新日鉄名古屋 22（8—10、9—7：1—3、4—2）22 陸上勝田

引き分け

（注）抽せんで新日鉄名古屋が3位

○…延長後半、残り1分20—22と追い詰められた新日鉄が、みごとな粘りで連続2点、この試合10度目のタイスコア、抽せん勝ちの幸運を呼びこんだ。

それまでの経過は、互いに好ペースとなりながら、相手の反撃を許すという、ひ弱なところを見せめまぐるしい展開だった。

特に、勝田は、後半はじめ11—8、17分16—13のキープを守れず延長後も先手をとりつづけていただけに悔やまれよう。

新日鉄も立ちあがり、いきなり4—0としながら乱れ、苦しい試合とした。

ともすれば味気ないのが3位決定戦だが、この大会にかける両チームの意気ごみを感じさせる好試合だった。　（福井）

トヨタ、終盤に貴重な2点

▽決勝

トヨタ車体 9（5—2、4—5）7 神戸製鋼

得	【トヨ】		【神戸】	得
0	遠山	GK	大谷	0
0	近藤	GK	松原	0
6	宮松	FP	須藤	5
0	山田隆		河内	0
1	大塚		笹野	2
0	牧		山本	0
1	高橋		中尾	0
1	松本		江口	0
0	山田透		山崎	0
0	山口		柴田	0
0	横尾		赤嶺	0
0	荒木		藤谷	0
9	(2)	PT	(1)	7

（審・福井、吉田）

○…決勝進出に気負いすぎたか両チームとも凡失が多く、15分をすぎてトヨタが宮松、高橋の連続得点で5—1としたが追加点をあげられず、須藤のロングを主武器とした神戸の反撃を許して、後半9分5—5と振り出しへ戻った。

互いに慎重さのあまり、攻撃に思い切りを欠きそのあとは1点づつを入れあっただけで進んだが、トヨタは25分PT、27分大塚で8—6と余裕をもち、28分1点を返されたが、29分30秒宮松が貴重な追加点をあげ、初優勝を決めた。

最後まで固さがほぐれず、内容的には、やや物足りなかった。　（新井）

トヨタ車体　10年目の栄光

□…優勝の喜びがこみあげてきたのは、かなりあとだった。

「準決勝で、神戸製鋼（兵庫）の試合を見て、とてもウチが勝てる相手ではないと思っていた」と山田透監督兼選手（芝浦工大出、第6回世界選手権代表）も、しばらくは勝利を信じられない様子。

ベスト8進出を目標に乗りこみ「まさか」「まさか」を重ねての初栄冠である。

□…そもそもが42年、現副部長の稲住晋二氏が、独身寮の寮生を集めて発足した〝市民派〟チーム。

46年、常盤工業（岐阜、現在廃部）に居た山田、47年、宮松（関大）を迎えて攻守の中心を造り、愛知実業団リーグでは、46年春から48年秋まで8季連続2位（1位は大同製鋼）、〝実力派〟としても注目されるようになった。

□…本処地・刈谷市は市民スポーツ、社会体育が盛んなところ。その土壌に育てられた同好会が、10年目で〝全国優勝〟を遂げた意義は大きい。

1週3日、それも1日2時間程度、ハーフコートでの練習だが、チームの結束は高い。

総勢14人。コート、ベンチ一体で声をかけあっての栄光。

「二度と得がたい感激だった」と、創設時からただ一人プレーをつづけている山口(加治木工高出)は目をうるます。

いいチームがまた一つ、地道な努力を実らせて、飛びだして来た　（S）

日韓女子社会人兼ねて 17日から全国選抜大会

名古屋

全日本実連は、NBN（名古屋テレビ）杯をかけた第4回全国選抜女子大会を、3月17日から21日までの4日間、名古屋市体育館でのびのびになっていた第5回日韓女子社会人交流を兼ねて行うことに決めた。

韓国からのゲストチームには、同国社会人のトップチーム・仁川市庁が予定されている。

同チームは、昨年6月訪韓した全日本学生選抜と対戦、14―16で敗れているが、朴妙順、権美子GK李太妊らナショナルプレイヤーをかかえている。韓国の女子社会人チームが単独で来日するのは47年7月の白花醸造（ソウル、廃部）以来3年9ケ月ぶり。

日韓女子社会人交流は、49年5月、日本実業団選抜が遠征して以来のこと。これまでの通算成績は日本側の18戦12勝1分5敗。

国内チームは、第2、第3回大会優勝の日本ビクター（茨城）をはじめ、大崎電気（埼玉）、日立栃木（栃木）、ブラザー工業（愛知）のほか、田村紡（廃部）から松下、河田、GK久保ら10選手を迎えて新発足したジャスコ（三重）が、初登場するのが注目される。

第1試合開始時間は20・21日が正午、そのほかは午後4時30分の予定。

男子ビッグ4は4月　第3回朝日招待全日本男子実業団選抜“ビッグフォア”リーグは、4月なかば、関東地区で、大崎電気（埼玉）が当番チームとなって開く。参加チームなど詳細は未発表である。

4月18日に選考試合

日本女子実業団リーグ

全日本実連は、女子・田村紡（三重）の廃部によって、日本実業団リーグ（8チーム）に、欠員が生じたことから、その補充のためのセレクションマッチを、4月18日名古屋・ブラザー工業体育館で行うことに内定した。

すでに、ジャスコ（三重）、大和銀行（大阪）などが、参加の意思を示している、と伝えられる。

なお、日本リーグ発足にともない全日本実業団選手権（日本実業団リーグ）は、今年から各地転戦を廃め、“集中開催”に変わる。

日立栃木が大勝

実業団リーグ入替戦

日本女子実業団リーグ8位の日立栃木（栃木）と、実連会長杯リーグ1位の豊田工機（愛知）による“入れ替え戦”は、2月22日午後1時から、東京調布市の東京重機工業体育館で行われ、日立栃木が攻守に一日の長を示し、リーグ残留を決めた。

日立栃木（栃木）24（15―3、9―0）3 豊田工機（愛知）

東海実業団リーグ 大同製鋼、本田破り6連勝

第11回東海実業団選手権（男子）は6チーム、5週間にわたるリーグ・システムを初採用、昨年11月30日開幕、2月15日全日程を終え予想どおり大同製鋼（愛知）×本田技研鈴鹿（三重）の優勝争いから、大同が辛勝、6連勝を飾った。

なお、女子は昨年5月に終了。

大同製鋼（愛知）45（24―8、21―10）18 日本耐酸壜（岐阜）
本田技研鈴鹿（三重）31（15―10、16―8）18 二和家具（岐阜）
トヨタ車体（愛知）30（16―7、14―8）15 日本耐酸壜
大同製鋼 25（16―9、9―4）13 二和家具
本田技研鈴鹿 36（16―3、20―4）7 日本耐酸壜
二和家具 30（17―11、13―4）15 日本耐酸壜
大同製鋼 33（18―10、15―9）19 新日鉄名古屋
本田技研鈴鹿 31（13―11、18―6）17 トヨタ車体
本田技研鈴鹿 36（16―3、20―4）7 日本耐酸壜
二和家具 20（11―7、9―8）15 新日鉄名古屋
大同製鋼 25（13―10、12―3）13 トヨタ車体
本田技研鈴鹿 33（18―10、15―9）19 新日鉄名古屋
トヨタ車体 21（12―6、9―9）15 新日鉄名古屋
トヨタ車体 21（11―12、11―9）21 二和家具
新日鉄名古屋 29（12―6、17―4）10 日本耐酸壜
大同製鋼 20（13―10、7―6）16 本田技研鈴鹿

【順位】①大同製鋼5戦全勝②本田技研鈴鹿4勝1敗③トヨタ車体・二和家具工業2勝1分2敗⑤新日鉄名古屋1勝4敗⑥日本耐酸壜

▼第23回大阪実業団選手権（2月）

湧永薬品 27―4 大阪ガス
大山商会 20―6 日鉄建材
湧永薬品 28―7 美津濃
大山商会 17―8 大阪ガス
湧永薬品 27―5 日鉄建材
大山商会 17―6 美津濃
大阪ガス 13―10 日鉄建材
美津濃 13―9 日鉄建材
美津濃 12―9 大阪ガス
湧永薬品 20―8 大山商会

【順位】①湧永薬品②大山商会③美津濃④大阪ガス⑤日鉄建材

各地の記録

東北学院大、9年ぶり
東北総合室内選手権

第12回東北総合室内選手権は、1月24、25の両日、山形県営体育館に男女各12チームが参加して行われた。

男子は、3連覇を狙うSGク（福島）を準決勝でつぶした東北学院大（宮城）が、余勢をかって決勝でも福島教員クを押しまくり、第3回（昭42）以来、9年ぶり2度目の優勝を飾った。

女子は、今年も高校チームが多かったため東北ムネカタ（福島）が抜群、4年連続5度目の優勝をとげた。

▽男子1回戦

大曲農高（秋田）9（5−2、4−4）6 花巻北高（岩手）

東北学院大（宮城）30（14−6、16−4）10 青森ク（青森）

仙台育英高（宮城）15（6−5、9−3）8 大石田高OB（山形）

岩手教員（岩手）20（11−5、9−7）12 湯沢高（秋田）

▽同準々決勝

SGク（福島）20（9−4、11−4）8 大曲農高

東北学院大 22（9−8、13−5）13 新庄ク（山形）

福島教員（福島）21（8−6、13−8）14 仙台育英高

岩手教員 18（9−6、9−9）15 七戸ユニオン（青森）

▽同準決勝

東北学院大 20（10−5、10−4）9 SGク

福島教員 14（8−7、6−6）13 岩手教員

▽同決勝

東北学院大 24（17−2、7−6）8 福島教員

▽女子1回戦

和洋女高（秋田）13（10−2、3−3）5 二華会

野辺地高（青森）9（5−1、4−4）5 竹田女高

長沼OG（福島）棄権 あすなろク（青森）

古川女高（宮城）7（2−1、2−3、2−0、1−0）4 米沢女高（山形）

▽同準々決勝

東北ムネカタ（福島）13（4−4、9−2）6 和洋女高

花巻南高（岩手）20（9−2、11−4）6 野辺地高

長沼OG 8（5−3、3−1）4 盛岡二高（岩手）

全和洋（秋田）10（7−5、3−2）7 古川女高

▽同準決勝

東北ムネカタ 17（10−1、7−2）3 花巻南高

長沼OG 10（4−3、6−3）6 全和洋

▽同決勝

東北ムネカタ 12（6−2、6−1）3 長沼OG

男女とも函館勢勝つ
北海道室内選手権

第15回北海道室内選手権は昨年12月19日から21日まで函館市民体育館に、男子21、女子4チームが集まり開かれた。

男子は、クラブ勢に学生チームがからみ激戦を展開したが、地元・函館有斗クが北大、北見工大をかわして初優勝、前回1位の札幌エルム・クは3位だった。

女子は函館のライバルOG同士の争いから函商OGが栄冠を飾った。

▽男子1回戦

大谷クB 19—16 教大旭川B

登別ク 棄権 函工ク

自衛隊第7施設 30—12 教大函館

志峰ク 26—8 旭川市役所

有斗OB 27—11 函工OB

▽同2回戦

函館有斗ク 28—17 大谷クB

道日体ク 34—8 函館商門会

函館ベアーズ 32—11 志峰クB

北大 26—7 登別ク

大谷ク 22—17 自衛隊第7施設

北見工大 26—10 函館翔球会

教大旭川 14—12 志峰ク

札幌エルム 12—9 有斗OB

▽同準決勝

函館有斗ク 15（7−4、8−4）8 道日体ク

北大 13（6−3、7−2）5 函館ベアーズ

北見工大 13（6−3、7−9）12 大谷ク

札幌エルム 18（10−3、8−2）5 教大旭川

▽同準決勝

函館有斗ク 16（7−9、9−4）13 北大

北見工大 14（8−7、6−4）11 札幌エルム

▽同決勝

函館有斗 23（9−5、14−3）8 北見工大

▽女子準決勝（=1回戦）

函館女商OG 15（7−4、8−1）5 上川ク

函商OG 16（7−0、9−1）1 教大旭川

▽同決勝

函商OG 9（5−3、4−4）7 函館女商OG

男子で前原が躍進

▼第11回沖縄県高校新人選手権大会（1月、前原高）

▽男子準々決勝

興南 18—11 小禄

首里 8—6 コザ

前原 12—9 沖縄工

那覇 9—4 沖縄

▽同準決勝

前原 16—3 那覇

興南 11—7 首里

▽同決勝

前原 16（8−5、8−6）11 興南

▽女子準々決勝

首里 5—4 糸満

宜野座 6—5 知念

コザ 6—4 浦添商

興南 7—2 浦添

▽同準決勝

興南 9—2 コザ

宜野座 3—1 首里

▽同決勝

興南 11（6−3、5−1）4 宜野座

高校も函館勢強し

▼第15回北海道高校新人戦（50年12月、函館）

▽男子準々決勝

札幌西 19—9 函館中部

函館東 16—7 室蘭工

函館大谷 14—10 函館有斗

札幌南 棄権 函館工

▽同準決勝

函館東 7—5 札幌西

函館大谷 23—9 札幌南

▽同決勝

函館大谷 24（11−1、13−5）6 函館東

▽女子1回戦（1試合）

函館商 11—1 上磯

▽同決勝

函館女商 7（2−1、2−3、2−0、1−1）5 函館商

愛媛大、宿願の初優勝

中四国学生秋季リーグは昨年11月15、16日の両日、香川大学体育館で行われ、1部では愛媛大が、5季ぶりに返り咲いた松山商大を延長の末に破り、41年秋加盟以来、宿願の初優勝を遂げた。2部は広島大が2度目。

女子（注・秋季大会は初）は山口大が得失点差で岡山県短大をかわした。

▽男子1部・予選リーグA組
広島修道 11—10 山口大
愛媛大 15—11 広島修道
愛媛大 23—5 山口大
①愛媛大②広島修道③山口大

▽同B組
松山商大 13—12 広大福山
広大福山 12—10 岡山大
松山商大 11—7 岡山大
①松山商大②広大福山③岡山大

▽5・6位決定戦
山口大 11（5—3、6—2）5 岡山大

▽3・4位決定戦
広大福山 16（7—4、9—7）11 修道

▽決勝戦
愛媛大 12（5—5、5—4、……、1—1、2—0）10 松山商大

	【松商】	得	【愛媛】	得
GK	魚住	0	山崎	0
GK	堀内	0	佐々木	0
FP	池田	1	武智	6
FP	岡田	3	池田	0
FP	津森	3	秦	0
FP	千種	1	大西	0
FP	横川	0	中村	3
FP	増田	1	曽根	1
FP	武知	1	吉田	0
FP	清永	0	金子	1
FP	住田	0	林	1
FP			小倉	5
PT	（1）	10	（2）	12

▽同2部・予選リーグA組
広島大 10—9 広島工大
広島工大 15—10 近大（工）
広島大 15—10 近大（工）

▽同・B組
香川大 17—12 徳島大
香川大 26—12 山口大（工）（新加盟）
徳島大 13—10 山口大（工）

▽5・6位決定戦
山口大（工）19—12 近大（工）

▽3・4位決定戦
広島工大 18—7 徳島大

▽1・2位決定戦
広島大 20（10—5、10—5）10 香川大

女子は山口大勝つ

▽女子
岡山県短大 11（4—5、7—3）8 広大福山
岡山県短大 9（3—3、6—6）9 山口大
引き分け
山口大 16（4—0、12—2）2 広大福山

【順位】①山口大（得失点差14）②岡山県短大（3）③広大福山

富岡高OBに凱歌あがる

▼第16回群馬県総合選手権（1月 前橋商体育館）

▽男子準々決勝
前橋工ク 24—16 群馬教員
富岡高OB 31—11 吉井高
富岡高 21—9 前橋商高
甘楽ク 29—17 藤岡高OB

▽同準決勝
富岡高OB 15—9 前橋工ク
富岡高 19—13 甘楽ク

▽同決勝
富岡高OB 23（15—5、8—14）19 富岡高

▽女子準々決勝
群女短大附高 12—11 前橋ピジョンズ
下仁田高 14—10 高崎市女高
前橋市女 14—9 高崎女高
前橋商OG 18—11 吉井高

▽同準決勝
下仁田高 11（分）11 群女短大附高
PTコンテスト2—1で下仁田高の勝ち
前橋市女高 11—3 前橋商OG

▽同決勝
前橋市女高 15（9—5、6—5）10 下仁田高

岐阜市教育委が優勝

▼第2回森島杯争奪岐阜県教職員大会（12月・岐阜県民体育館）

【予選リーグ】
▽Aブロック①岐阜北高教②多治見高教③養老女商高教
▽Bブロック①岐阜市教委②大垣農高教③市岐阜商高教
▽Cブロック①岐阜工高教②中津高教③岐阜西工高教
▽Dブロック①大垣一女高教②郡上高教③穂積町教委

▽決勝トーナメント準決勝
岐阜市教委 9—8 岐阜北高
大垣一女高 17—12 岐阜工高

▽同3位決定戦
岐阜北高 7—0 岐阜工高

▽同決勝
岐阜市教委 12（6—6、6—4）10 大垣一女高

弘前南、青森破り優勝

▼第6回青森県教育長杯争奪高校選手権（1月・青森高）

▽男子準々決勝
弘前南 22—14 野辺地
鰺ケ沢 18—10 三本木
青森 11—9 青東
七戸 18—13 柏木農

▽同準決勝
弘前南 13—11 鰺ケ沢
青森 13—12 七戸

▽同決勝
弘前南 13（5—5、8—6）11 青森

▽女子1回戦（1試合）
七戸 11—5 鰺ケ沢

▽同準決勝
青森西 7—3 七戸
野辺地 9—6 三本木

▽同決勝
青森西 12（5—4、7—4）8 野辺地

岩手教員が7連勝

▼第18回岩手県総合室内選手権（1月・岩手県体育館）

▽一般男子1部・1回戦（2試合）
一関高専 19—9 志高ク
石桜ク 23（延）20 白亜ク

▽同準決勝
岩手教員 16—13 一関高専
商友会 27—7 石桜ク

▽同決勝
岩手教員 18（10—8、8—5）13 商友会

▽同2部決勝
花巻ク 20（10—3、10—4）7 盛岡市役所

国体目指し強化着々

▼第8回佐賀県東西対抗大会（1月・嬉野商高体育館）

▽高校男子
国体候補B（佐賀農）17（9—7、8—6）13 A国体候補

▽高校女子
選抜A 9（5—2、4—0）2 選抜B

▽一般女子
A国体候補 18（9—5、9—2）7 B国体候補

▽一般男子
佐賀教員 23（8—11、15—10）21 一般男子選抜

尾鷲が男子で初栄冠

▼三重県高校新人大会（1月・四日市市体育館）

▽女子準決勝
暁 4—3 四日市
津女子 12—3 菰野
▽同決勝
津女子 8（5—0、3—0）0 暁
▽同男子準々決勝
尾鷲 14—7 桑名西
四日市工 29—13 津工
四日市 19—9 津
四日市中央工 17—7 亀山
▽同準決勝
四日市工 11（延）10 四日市
尾鷲 28—7 四日市中央工
▽同決勝
尾鷲 14（8—3、6—8）11 四日市工

女子は筑紫女学園勝つ

▼第22回福岡県高校室内選手権
▽男子準々決勝
小倉工 27—5 西田川
久留米工 11—6 若松
東海第五 27—10 明善
宗像 15—12 田川工
▽同準決勝
久留米工 12（分）12 小倉工
PTコンテスト5—4で久留米工の勝ち
東海第五 17—7 宗像
▽同3位決定戦
小倉工 26—11 宗像
▽同決勝
久留米工 16（6—5、10—6）11 東海第五
▽女子準々決勝
東海第五 7—5 浮羽
筑紫女学園 6—4 古賀
明善 8—7 筑紫中央
福岡女子 1—0 嘉穂農
▽同準決勝
筑紫女学園 6—5 東海第五
明善 13—5 福岡女子
▽同3位決定戦
東海第五 9—4 福岡女子
▽同決勝
筑紫女学園 10（3—4、7—2）6 明善

奈良、添上に快勝

▼奈良県高校新人大会（1月・奈良工高）
▽男子準々決勝
天理 19—6 畝傍
奈良 11—10 郡山
添上 21—4 東大寺
奈良工 11—4 十津川
▽同準決勝
奈良 7—5 天理
添上 9—8 奈良工
▽同決勝
奈良 14（9—2、5—4）6 添上
▽女子準決勝
一条 11—3 帝塚山
郡山 3—2 添上
▽同決勝
郡山 7（3—0、4—4）4 添上

女子で三宅、強味みせる

▼東京都高校新人大会（1月・東京重機）
▽男子準々決勝
拓大一 20—8 国分寺
日体荏原 29—7 三宅
新宿 16—7 農大一
開成 9—7 片倉
▽同準決勝
拓大一 17—10 新宿
日体荏原 19—10 開成
▽同決勝
日体荏原 17—12 拓大一
▽女子準々決勝
江戸川 5—1 国立
小平 5—1 練馬
井草 6—5 府中
三宅 12—8 藤村
▽同準決勝
小平 5—3 江戸川
三宅 9—0 井草
▽同決勝
三宅 11—5 小平

▼第7回岡山県高校室内選手権（1月・岡山県営体育館）
▽男子準々決勝
倉敷工 25—11 高梁工
邑久 16—10 青陵
児島 20—11 倉敷商
天城 16—10 総社
▽同準決勝
倉敷工 20—5 邑久
天城 14—12 児島
▽同3位決定戦
児島 15—7 邑久
▽同決勝
倉敷工 17（11—7、6—5）12 天城
▽女子準々決勝
金川 12—2 倉敷中央
西大寺 7—5 津山
真備 10—1 青陵
津山商 30—2 落合
▽同準決勝
金川 12—2 西大寺
津山商 8—4 真備
▽同3位決定戦
真備 11—3 西大寺
▽同決勝
津山商 5（3—3、2—2）5 金川
PTコンテスト2—1で津山商の勝ち

三春台ク、日本発条制す

▼神奈川県秋季男子選手権（50年11月・多摩高ほか）
▽上位（1部）リーグ
三春台ク 20—11 Y・P・C
日本発条18—5セントラル自動車
三春台ク 11—10 セ自動車
日本発条 15—11 Y・P・C
セ自動車 不戦勝 Y・P・C
三春台ク 13—12 日本発条
【順位】①三春台ク②日本発条③セントラル自動車④YPC
▽下位トーナメント準決勝
横浜商工OB15—12 東海大選抜
神奈川教員団21—11 全東海大
▽同決勝
神奈川教員団25（延）22横商工OB

★編集後記

□……読者の投稿、寄稿は大切にしたい。だが、どうしても掲せられないことがたまにはあるものだ。

□……ある大学（ハンドボール部）の記念誌に、日本協会批判の署名原稿が載った。

私も、読んでみたが、鋭い筆さきと云うほどのものではなかった。

□……ところが、この一文が日本協会の会合で話題となり、執筆者にペナルティを課すべきではないかとの意見も出たそうだ。

急先鋒は、田村会長だったと聞き、私は、そうした性質なものではないと、同会長に伝えたが、そのうちに執筆者のほうが関係していた二つのハンドボール機関を辞めてしまった。

□……先週、そのかたが本誌あて手記を届けてきた。

関係機関を退いたのは、辞めるように云われたから、というニュアンスだったが、どっちにしろ、全国の読者には関係のない部分が多い内容なので、掲載を見合せた。

□……体制側であれ、反体制側であれ、在野であれ、〝狭い視野〟による論争の結末記を紹介するほど、誌面の余裕はない。読者のご理解をいただけると思う。（杉山）

クウェート参加せず
アジア予選1次ラウンド

ハンドボール
第139号
付録（速報）

日本協会へ、IHF（国際ハンドボール連盟）アジア選出理事・渡辺和美氏から2月27日伝えられた連絡によるとモントリオール・オリンピックアジア地域予選1次ラウンドに出場を予定されていたクウェートが参加をとりやめた。

これで1次ラウンドは、日本、韓国、台湾の3ケ国によって行われることとなった。

クウェートの棄権理由は、現時点では、詳らかにされていない。

◇

日本協会筋や本誌の予測どおり、やはりクウェートは顔を見せないことになった。

今回の組み合せは昨年12月12日、キエフ（ソ連）で開いたIHF理事会で決められたものだが（＝本誌138号参照）、それより2ケ月前、プレオリンピック（モントリオール）で、日本協会・荒川清美理事長が、IHF筋から聞いた情報では、クウェートはシードされ、日、韓、台のグループに加えられていなかった。（＝本誌136号参照）

それが「最善策」であったハズである。

ところが、キエフの会議でクウェートが含められ、日本協会筋を驚ろかせたものだ。

IHFはクウェートの参加に確信をもち、IHF事務総長M・リンケンバーガー氏から荒川氏へ届いた手紙にも「クウェートの確認をとりつけた」と記されていた、という。

しかし、日本協会は、最後（？）まで、クウェートの〝台湾乗りこみ〟に疑問符を打ちつづけてきており、大会3週前になっての棄権にも、さして驚きの色を見せていない。

竹野奉昭全日本男子監督は「主力の学生が、出られなくなったのではないか」と云っているが、棄権の理由はどうであれ、これまでベールに包まれていた同国が、せっかく出場の意志を示した初大会だけに、残念でならない。

それにしても、AHF（アジアハンドボール連盟）結成といい、今回といい、IHFの、アジアに打つ手が裏目々々と出ているのはどうしたことだろう。

（杉）

日程変更なし　日本協会・荒川理事長は、クウェートの棄権により1次ラウンドへ、イスラエルが合流するのではないかとの観測について、今のところその動きはないと云っている。

クウェートがらみの2試合を担当する予定だった安藤純光、佐野和夫両審判員の取り扱いは未定。

全日本男子13日出発　アジア予選に出場する全日本男子代表（神田清団長ら役員4、選手14名）は3月13日午前7時30分、合宿先の沖縄からパン・アメリカン航空機で台北へ向かう。

会場は新設　台湾協会はこのほどアジア予選の会場は2月末に完成する台北市立体育専科学校体育館（タータン・フロア）であると発表した。

エミール・ホルレ氏急逝

親日派で知られたIHF技術分野の重鎮・エミール・ホルレ氏（スイス、現IHF審判と規則委員会委員長）は2月末、急逝された。

同氏は、今回のアジア予選にIHFウィットネスとして参加する予定だった。

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一三九号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和五十一年二月二十五日印刷 昭和五十一年三月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神[illegible]一－一
電話 大代表(467)[illegible]一一
振替 東京五八[illegible]四八番
編集兼発行人 荒川清美
定価二百五十円（年間購読料二千五百円）